

# 北村透谷参考文献目録

——昭和二十一年～昭和五十年——

鈴木 一 正

要旨 本目録は、明治二十年代に活躍した詩人・評論家の北村透谷（一八六八～一八九四）の参考文献目録で、「単行本」「雑誌特集号」「新聞・雑誌・単行本等所収論文」の三つに分け、それぞれ発行順に並べたものである。

収録期間は、昭和二十一年から昭和五十年までの三十年分で、小生作成の「北村透谷参考文献目録―昭和二十一年～平成九年―」（楠谷秀昭ほか編『透谷と現代 21世紀へのアプローチ』翰林書房、平10・5）の『前に』続くものである。

この期間を対象とした透谷の参考文献目録はいくつか作成されているが（付記参照）、本目録では、これら目録に未収載の文献を加えるとともに、なるべく現物を確認し、正確を期すことにした。また、先行目録が省略した巻号（月刊等は除く）や副題を加え、単行本所収の情報も付加した。いわば本目録は、先行参考文献目録の増補改訂版といふべきものである。

小生作成の二つの目録を合わせると、昭和二十一年から平成九年までの戦後五十二年分の目録（発行年月順）となる。



## 凡 例

- 一、本目録は、小生作成の「北村透谷参考文献目録―昭和五十一年―平成九年―」（桶谷秀昭ほか編『透谷と現代 21世紀へのアプローチ』翰林書房、平10・5）の前に続くものである。
- 一、本目録の構成は、「1単行本」「2雑誌特集号」「3新聞・雑誌・単行本等所収論文」から成る。
- 一、「1」には、主要関係論文収載の図書も含め、「2」には、それに準ずるものも含めた。
- 一、収録期間は、「1」を除き、昭和二十一年から五十年までの三十年分とした（『明治文学全集29』以前）。枚数の関係で「1」と「2」の内容細目は割愛し、「3」では書評を割愛した。
- 一、所収書名は、↓「」で示した。ただし、「1」に掲げたものは、出版者名、発行年月日を省略した。
- 一、排列は、月単位で発行順に並べた。同月内は、著者名の五十音順とし、雑誌等で同時に複数の論文掲載の場合は、その掲載順とした。ただし、週刊紙（誌）、日刊紙は、同月内の後に、月日順に並べた。
- 一、タイトルは、原則として目次ではなく、本文のものを採用した。副題（サブタイトル）は、なるべく採用するようにしたが、所収書名の副題は省略した。なお、副題の表記は、記載のとおりとした。
- 一、単行本は「」、雑誌等は「」で示し、叢書名・特集名等、補足的事項はへ〜を用いた。また無署名の場合は、著者名欄に――で表示した。その他、必要に応じて注記した。
- 一、連載・分載の場合は、一括で記入し、著者名の上に\*印を付した。
- 一、原則として、雑誌等の「初出」によった。初出不明、未確認の場合は、単行本所収時のものを記載した。

1 単行本

- 百田宗治 『鑑賞透谷詩選』〈詩鑑賞叢書4〉（金星堂、昭4・2・15）
- 阪本越郎 『北村透谷』〈教養文庫63〉（弘文堂書房、昭15・8・25）
- 舟橋聖一 『北村透谷』（中央公論社、昭17・1・15）昭44・10に日本ソノ書房から復刊
- 榊原美文 『文学界派 明治浪漫主義評論』〈明治文化叢書〉（日本評論社、昭23・9・10）
- 宍道 達 『北村透谷』（宝文館、昭24・6・15）
- 増田五良 『文学界のころ』（朝日新聞社、昭25・6・25）
- 笹淵友一 『北村透谷』（福村書店、昭25・7・20）平5・1に日本図書センターから復刻版
- 矢野峰人 『『文学界』と西洋文学』（門書房、昭26・5・10）
- 坂本 浩 『北村透谷―平和と自由・愛と死―』（至文堂、昭32・8・20）
- 片岡良一 『日本浪漫主義文学研究』（法政大学出版局、昭33・2・10）
- 笹淵友一 『文学界とその時代』上（明治書院、昭34・1・15）
- 色川大吉 『明治精神史』（黄河書房、昭39・6・22）昭43・6に増補版。昭51・7に講談社学術文庫版
- 平岡敏夫 『北村透谷研究』〈有精堂選書4〉（有精堂出版、昭42・6・30）昭57・5に新装版
- 桶谷秀昭 『近代の奈落』（国文社、昭43・4・15）昭59・1に改訂版
- 安住誠悦 『浪漫主義文学―「近代」文学のなりたち―』（北書房、昭44・1・15）
- 小田切秀雄 『北村透谷論』〈近代文学研究双書〉（八木書店、昭45・4・20）昭54・6に増補版

- 平岡敏夫 『続北村透谷研究』（有精堂選書22）（有精堂出版、昭46・7・20）昭57・5に新装版  
日本文学研究資料叢書刊行会編 『北村透谷』（日本文学研究資料叢書）（有精堂出版、昭47・1・1）  
岡林清水 『自由民権運動文学の研究』（高知市民図書館、昭48・3・25）昭62・1に土佐史談会から増補改訂版
- 関 文月 『北村透谷』（ふだん記本35）（ふだん記全国グループ、昭48・5・15）橋本義夫編  
色川大吉 『新編明治精神史』（中央公論社、昭48・10・25）  
北川 透 『〈幻境〉への旅』（北村透谷・試論Ⅰ）（冬樹社、昭49・5・25）  
小沢勝美 『透谷と秋山国三郎 附秋山龍子句集「安久多草紙」』（小沢勝美、昭49・7・10）  
西田 勝・鹿野政直・小田切秀雄 『透谷没後八十周年記念講演会講演集』法政大学文学部日本文学科大正文学ゼミナール、昭50・5）
- 北川 透 『内部生命の砦』（北村透谷・試論Ⅱ）（冬樹社、昭51・9・25）  
北川 透 『〈蝶〉の行方』（北村透谷・試論Ⅲ）（冬樹社、昭52・12・20）  
小沢勝美 『文学―透谷と漱石を中心に―』（法政大学通信教育部、昭54・3・30）  
色川大吉編 『大矢正夫自伝（マユ）』（大和書房、昭54・3・31）  
黒古一夫 『北村透谷論―天空への渴望』（冬樹社、昭54・4・13）  
津田洋行 『透谷像構想序説』（伝統）と（自然）』（笠間書院、昭54・5・31）  
佐藤 毅 『北村透谷の世界』（浪漫研叢書Ⅵ）（浪漫主義文学研究会、昭54・9・5）  
勝本清一郎 『近代文学ノート2』（みすず書房、昭54・11・15）

- 桶谷秀昭 『北村透谷』〈近代日本詩人選1〉(筑摩書房、昭56・11・25) 平6・10にちくま学芸文庫版
- 平岡敏夫 『北村透谷研究 第三』(有精堂出版、昭57・1・20)
- 小沢勝美 『北村透谷 原像と水脈』(勁草書房、昭57・5・15)
- 宮川 政 『ゲオルク・ビュヒナーと北村透谷』(葦書房、昭58・10・20)
- 横林混二 『北村透谷と徳富蘇峰』〈新鋭研究叢書1〉(有精堂出版、昭59・9・20)
- 高田掬泉 『北村透谷物語』(こよろぎ社、昭60・1)
- 森山重雄 『北村透谷 エロスの水脈』(日本図書センター、昭61・5・25)
- 橋詰静子 『透谷詩考』(国文社、昭61・10・15)
- 自由民権の碑建碑実行委員会編 『時・運・来』〈自由民権の碑―透谷と美那子出会いの地―建碑の記録〉(自由民権の碑建碑実行委員会、昭61・11・3)
- 吉増剛造 『透谷ノート』〈小沢コレクション19〉(小沢書店、昭62・5・20)
- 上野芳久 『北村透谷』『蓬萊曲』考』〈白地叢書〉(白地社、昭63・2・20)
- 町田市立自由民権資料館編 『透谷と美那子』〈民権ブックス2〉(町田市教育委員会、平1・3・30)
- 大田正紀 『近代日本文芸試論―透谷・藤村・漱石・武郎』(桜楓社、平1・5・25)
- 川崎 司 『若き明石 櫻井成明』(弘隆社、平1・9・9)
- 岡村繁雄 『透谷の風景 八王子川口村「幻境」』〈かたくら書店新書33〉(かたくら書店、平1・11・25)
- 色川大吉 『自由民権の地下水』〈同時代ライブラリー22〉(岩波書店、平2・5・15)
- 山田博光 『北村透谷と国木田独歩―比較文学的研究―』(近代文芸社、平2・12・20)

- 小沢勝美 『透谷と漱石 自由と民権の文学』（双文社出版、平3・6・24）
- 藪 禎子 『透谷・藤村・一葉』（新視点シリーズ 日本近代文学4）（明治書院、平3・7・10）
- 色川大吉・井上勝也 『北村透谷を語る／新島襄を語る』（NHKこころをよむ）（日本放送出版協会、平3・12・1）平3・12／4・1ラジオ放送テキスト
- 茂木 宏 『透谷没後の北村美那の人生』（茂木宏、平4・6・17）
- 関 良一 『考証と試論 二葉亭・透谷』（研究選書47）（教育出版センター、平4・8・21）
- 岡部隆志 『北村透谷の回復―憑依と覚醒―』（三一書房、平4・12・31）
- 平岡敏夫 『北村透谷研究 第四』（有精堂出版、平5・4・9）
- 色川大吉 『北村透谷』（東京大学出版会、平6・4・25）
- 桶谷秀昭・平岡敏夫・佐藤泰正編 『透谷と近代日本』（翰林書房、平6・5・16）
- 永畑道子 『雙蝶―透谷の自殺』（藤原書店、平6・5・16）
- 佐藤善也 『北村透谷―その創造的営為』（翰林書房、平6・6・10）
- 青木 透 『北村透谷―彼方への夢―』（丸善ライブラリー128）（丸善、平6・7・20）
- 桑原敬治 『北村透谷論』（学芸書林、平6・10・15）
- 小田原市立図書館編 『土岐・運・来―』（北村透谷没後100年）展図録（小田原市立図書館、平6・11・3）
- 江刺昭子 『透谷の妻 石阪美那子の生涯』（日本エディタースクール出版部、平7・1・20）
- 平岡敏夫 『北村透谷研究 評伝』（有精堂出版、平7・1・25）
- 町田市立自由民権資料館編 『透谷と多摩の人びと』（民権ブックス7）（町田市教育委員会、平7・3・15）

- 北村透谷没後百年祭実行委員会編 『北村透谷と小田原事情 一点の花なかれよ』(夢工房、平7・5・16)
- 渥美饒兒 『孤蝶の夢 小説北村透谷』(作品社、平8・1・25)
- 竹田日出夫 『渴仰と復活の挿画―吉郎 武郎 透谷―』(双文社出版、平8・2・29)
- 篠原昌彦 『人権と福祉と近代文学―北村透谷と島崎藤村、有島武郎の場合―』(生活協同組合道央市民生協、平8・6・15)
- デ・ペ・ブガーエワ 『近代日本の先駆的啓蒙家たち―福沢諭吉・植木枝盛・徳富蘇峰・北村透谷・田岡嶺雲―』(平和文化、平8・10・25) 亀井博訳
- 佐藤善也 『透谷、練山とマシユ・アーノルド』(近代文芸社、平9・7・10)
- 渡辺 奨・鶴巻孝雄 『石阪昌孝とその時代―豪農民権家の栄光と悲惨の生涯』(町田ジャーナル社、平9・7・27)
- 新保祐司 『正統の垂直線―透谷・鑑三・近代』(構想社、平9・11・5)
- 小沢勝美編 『透谷と多摩―幻境・文学研究散歩―』(法政大学多摩地域社会研究センターブックレット1)(法政大学多摩地域社会研究センター、平9・11・29)
- 尾西康充 『北村透谷論―近代ナシヨナリズムの潮流の中で―』(明治書院、平10・2・28)
- 佐藤善也 『北村透谷と人生相渉論争』近代文芸社、平10・4・30)
- 桶谷秀昭・平岡敏夫・佐藤泰正編 『透谷と現代 21世紀へのアプローチ』(翰林書房、平10・5・16)
- 榎林滉二編 『北村透谷』(日本文学研究大成)(国書刊行会、平10・12・24)
- 平岡敏夫 『北村透谷と国木田独歩―短い生命の輝き』(NHKセミナー 明治文学を読む)(日本放送出版協

会、平11・10・1）平11・10・12・3ラジオ放送テキスト

## 2 雑誌特集号

北村透谷記念号（「火山脈」創刊号、火山脈社、昭23・10）

北村透谷（「文学」岩波書店、昭31・2）

北村透谷記念文集（「幻境」第1集、多摩文化団体連合会・地方文化研究会、昭31・9）

特集「北村透谷の研究」（「明治大正文学研究」第24号、東京堂、昭33・6）

特集 透谷と藤村―北村透谷没後七十年を記念して―（「国文学」学燈社、昭39・6）

北村透谷特集（「可動糸」第1号、昭和女子大学文学読書会、昭46・2）

特集Ⅱ北村透谷の文学と思想の挫折（「ピエロタ」第15号、母岩社、昭47・6）

特集Ⅲ北村透谷（「現代詩手帖」思潮社、昭50・4）

## 3 新聞・雑誌・単行本等所収論文

〔46〕小田切秀雄 北村透谷論（「思潮」第1巻第1号、昭21・3）↓『北村透谷論』

中野重治 日本文学史の問題（『日本文学の諸問題』新生社、昭21・5）

鈴木 治 透谷の思想形態―悲劇を書け―（「文芸」第3巻第6号、昭21・9）

〔47〕関 良一 透谷と自由（「果実」第3号、昭22・1）

小田切秀雄 三人の青年作家―北村透谷・石川啄木・小林多喜二―（「光」第3巻第2号、昭22・2）↓『北

村透谷論

瀨沼茂樹 近代文学に於ける自我の發展（『文学會議』第1輯、昭22・4）

斎藤昌三 郷土詩人透谷（小田原国民文学研究会編『透谷追慕展覽会目録 附現代文学者資料展』小田原市立

図書館、昭22・5）

神崎 清 北村透谷略伝（同右）

\*勝本清一郎 北村透谷の生涯（『伝記』第1巻第6、8号、昭22・9、11）↓『近代文学ノート2』

\*桜井増雄 北村透谷（『百家文苑録』（『新生日本文学』第2巻第7、9号、第3巻第1号、昭22・9、10、12、

23・1）↓『百家文苑録』全線社、昭43・8

福田恆存 近代日本文学の系譜（『作家の態度』中央公論社、昭22・9）

（48）\*勝本清一郎 透谷の文学的立場（『東京民報』昭23・1・15、16）↓『近代文学ノート』能楽書林、昭23・9。

『北村透谷』（日本文学研究資料叢書）

勝本清一郎 日本平和主義運動の黎明（『日本評論』昭23・2）↓『北村透谷』（日本文学研究資料叢書）。『近代

代文学ノート2』

小田切秀雄 厭世詩家と女性―北村透谷について―（小原元編『青春群像』真善美社、昭23・5）↓『北村透

谷論』

佐山 濟 ローマン派の序曲 北村透谷（『日本近代詩の歩み』（雄鶏新書）雄鶏社、昭23・5）

\*小田切秀雄 日本反戦文学史―素描―（『アカハタ』昭23・5・26、28）

小田切秀雄 北村透谷の場合―評論と創作との関係―（『人間的理想と文学』くれば書房、昭23・6）

- 小田切秀雄 北村透谷「一種の攘夷思想」—明治反戦文学の端緒—（『文化評論』第9号、昭23・6）
- \*神崎 清 島崎藤村の『春』（『女性改造』昭23・7、8）↓『作家とそのモデル』東和社、昭25・9
- 笹淵友一 近代浪漫主義に於ける基督教の意義—北村透谷を中心として—（『基督教文化』第30号、昭23・10）
- 勝本清一郎 平和の種を蒔いた人・北村透谷（『読売ウィークリー』第124号、昭23・11・13）↓『近代文学ノート2』
- （49）小田切秀雄 北村透谷と内田魯庵（『文芸往来』第3巻第3号、昭24・3）↓『北村透谷論』
- 勝本清一郎 透谷と蒙軒学舎—透谷の綽名について—（『東北文学』昭24・3）↓『近代文学ノート2』
- 坂本 浩 北村透谷の浪漫主義（『近代日本の文芸思潮』中文館書店、昭24・3）
- ナカニシ・ヒロシ 北村透谷（『文学』昭24・4）
- 家永三郎 北村透谷に於ける近代市民精神（『人間』昭24・5）↓『近代精神とその限界』角川書店、昭25・12。『北村透谷』（『日本文学研究資料叢書』
- 猪野謙二 透谷から藤村へ—文学史的素描—（『日本文学』第1輯、昭24・7）↓『近代日本文学史研究』未來社、昭29・1
- 猪野謙二 明治文学と平和への意志—平和文学論のための覚え書—（『文学』昭24・7）↓『近代日本文学史研究』未來社、昭29・1
- 小田切秀雄 北村透谷（近代文学社編『現代日本文学辞典』河出書房、昭24・7）
- 吉田精一 浪漫主義精神の系譜（『明治大正文学研究』第2号、昭24・12）
- 石丸 久 「文学界」運動の性格—特に成立初期、北村透谷を中心に—（同右）↓『北村透谷』（日本文学研

究資料叢書

〈50〉丸山 静 封建主義文学理論の克服―日本の近代の性格について―〔文学〕昭25・1)

\*吉田精一 雙蝶のわかれ〈近代名詩鑑賞〉〔解釈と鑑賞〕昭25・2、3)

小田切秀雄 近世文学と近代文学―透谷による批判と継承と―〔学生評論〕昭25・3) ↓『北村透谷論』

吉田精一 透谷と一葉〈教師のための文学講座2〉〔教育復興〕第3巻第2号、昭25・3)

太田三郎 「蓬萊曲」と「マンフレッド」の比較研究〔国語と国文学〕昭25・5) ↓『比較文学』研究社出版、昭30・7

\*太田三郎 「女学雑誌」研究〔書物展望〕第17巻第1、2号、第18巻第1号、昭25・5、8、26・1)

佐藤正彰 北村透谷〔辰野隆編〕『近代日本の教養人』(日夏耿之介博士華甲記念文集) 実業之日本社、昭25・

6)

勝本清一郎 解題〔勝本清一郎編〕『透谷全集』第1巻、岩波書店、昭25・7)

宇野浩二 北村透谷の本(同右附録)／日夏耿之介 透谷の垢(同右附録)／柳田 泉 透谷伝の一節(同

右附録)／神崎清 北村美那子覚書(同右附録)／勝本清一郎 透谷のセミコロン(同右附録) ↓『近代文学

学ノート2』

内藤洋子 北村透谷〈文学遺跡巡礼・日本文学篇第85回〉〔学苑〕昭25・7)

—— 北村透谷略伝(ダイジェスト・シリーズ刊行会編)『蓬萊曲 透谷の人と作品』(ダイジェスト・シ

リーズ20)ジープ社、昭25・7)

笹淵友一 風流とヒューマニズム〔東京女子大学論集〕第1巻第1号、昭25・9) ↓『明治大正文学の分析』

明治書院、昭45・11

矢野禾積 『文学界』と西洋文学（同志社大学「人文学」第3輯、昭25・9）

山宮 允 創成期概観―草創より明治二十八年迄―（山宮允編『日本現代詩大系』第1巻解説、河出書房、昭

25・9）「楚囚之詩」「蓬萊曲」「透谷集（抄）」を収録

太田三郎 北村透谷の研究 混沌期の先駆者（『図書新聞』昭25・9・13）

勝本清一郎 透谷全集と藤村（同右）↓『近代文学ノート2』

勝本清一郎 解題（勝本清一郎編『透谷全集』第2巻、岩波書店、昭25・10）

河井醉茗 透谷の死（同右附録）／西脇順三郎 透谷の芸術（同右附録）／島崎静子 透谷全集刊行によせ

て（同右附録）／平野 謙 透谷と『罪と罰』（同右附録）／なかの・しげはる 二つの問題（同右附録）

遠山茂樹 北村透谷小論 透谷全集第一巻発刊によせて（『歴史学月報』1、昭25・10）

森下幸男 北村透谷の思想（『説林』第2巻第10号、昭25・10）

吉田精一 近代詩の草創―新体詩抄より若菜集まで（『近代詩』（日本文学教養講座第3巻）至文堂、昭25・10）

勝本清一郎 『透谷全集』を編纂しながら（『文学』昭25・11）↓『近代文学ノート2』

神崎 清 北村透谷の愛の手紙（『婦人文庫』昭25・12）

〈51〉太田三郎 エマソンの先験思想と透谷（『文学』昭26・3）↓『比較文学』研究社出版、昭30・7

瀬沼茂樹 『文学界』の人々（『解釈と鑑賞』昭26・3）

山田 肇 戯曲の胎動（『近代劇』（日本文学教養講座第12巻）至文堂、昭26・3）

柳原美文 文学評論（野田寿雄ほか『現代日本文学手帖 散文篇』（創元手帖文庫）創元社、昭26・4）↓

『近代日本文学の研究』御茶の水書房、昭31・6

江口彰次 明治の小説―北村透谷と封建性―（中部国文学会編『日本文学の全貌』愛知書院、昭26・5）

笹淵友一 「内部生命論」（毎日新聞社図書編集部編『日本の名著』（毎日ライブラリー）毎日新聞社、昭26・

5）

成瀬正勝 「文学界」を中心として（斎藤清衛・成瀬正勝『随筆・日記・評論』（日本文学教養講座第8巻）

至文堂、昭26・5）

正宗白鳥 愛山と透谷―人生に相渉るとは何の謂ぞ―（論争回顧 その2）（『文学界』昭26・5）

猪野謙二 日本近代文学の生いたち（『近代日本の文学』福村書店、昭26・7）

寺田 透 北村透谷（筑摩書房編集部編『文学の問題』（文学講座Ⅰ）、筑摩書房、昭26・9）↓『現代日本作

家研究』未来社、昭29・5

岩上順一 明治二十年代（塙書房編集部編『文学読本 人と文学・現代日本文学篇』塙書房、昭26・11）

猪野謙二 評論（同右）↓『近代日本文学史研究』未来社、昭29・1

太田三郎 雑誌「文学界」の誕生（『学苑』昭26・12）

成瀬正勝 透谷とアーノルド（片岡良一編『近代日本文学講座』第3巻（思潮と流派（上））月報、河出書房、

昭26・12）

〔52〕笹淵友一 浪漫主義文学（『近代日本文学とキリスト教』（基督教文庫3）ナツメ社、昭27・1）

\*勝本清一郎 日本平和運動史の資料（『ユネスコ通信』昭27・1・15）5・15）

勝本清一郎 「文学界」と浪漫主義（折口信夫ほか監修『近代の文学 前期』（日本文学講座Ⅴ）、河出書房、

昭27・2）↓「北村透谷」（『日本文学研究資料叢書』）。「近代文学ノート2」

安住誠悦 北村透谷における「近代」―プロテスタンティズムの倫理と市民社会的自我―（『国語国文研究』

第5号、昭27・3）↓「浪漫主義文学」

太田三郎 透谷とバイロン・エマソン（『解釈と鑑賞』昭27・3）

桑島昌一 漂泊時代の藤村―東北への旅―（『国語と国文学』昭27・3）

小原 元 北村透谷（西尾実・近藤忠義編『現代文学総説』I（明治作家作品研究篇）、学燈社、昭27・4）

葛谷栄三 北村透谷に於ける浪漫主義（『国語研究』第3輯、昭27・4）

草部典一 反戦文学者透谷（『新日本文学』昭27・5）

遠山茂樹 日本近代化と透谷の国民文学論（『文学』昭27・5）↓「北村透谷」（『日本文学研究資料叢書』）。「自

由民権と現代」筑摩書房、昭60・9

橋浦兵一 蓬萊曲―位相と本質―（『文芸研究』第10集、昭27・6）

永平和雄 北村透谷ノオト（『日本文学研究』第33号、昭27・8）

\*市川為雄 北村透谷論（『文学者』第27、28号、昭27・9、10）

瀬沼茂樹 北村透谷（遠山茂樹編『日本歴史講座』第5巻〈近代篇1〉、河出書房、昭27・9）

片岡良一 解説（『日本近代文学研究会編『現代日本小説大系』補巻、河出書房、昭27・12）「我牢獄」「鬼心非

鬼心」「宿魂鏡」を収録

（53）片岡良一 浪漫主義の成立―北村透谷とその周囲―（『日本文学作家特殊研究―近代Ⅲ―』（法政大学通信

教育テキスト）法政大学通信教育部、昭28・1）↓「日本浪漫主義文学研究」

川合道雄 北村透谷の書簡〔「読書春秋」第4巻第2号、昭28・2〕

橋浦兵一 透谷の抒情詩をめぐって〔「文芸研究」第12集、昭28・2〕

天野 茂 覚書……透谷と啄木を繋ぐもの（西宮市）〔「教育時報」第2号、昭28・3〕

太田三郎 北村透谷の女性観〔「学苑」昭28・3〕

勝本清一郎 日本最初の平和運動詩〔「ニューエイジ」第5巻第6号、昭28・6〕↓〔「近代文学ノート2」〕

安住誠悦 近代的自我の系譜―内海文三から柳田素雄へ―〔「日本文学」昭28・8〕↓〔「浪漫主義文学」〕

関 良一 〔「蓬萊曲」と「琵琶法師」〕〔「国語」第2巻第2・3・4号、昭28・9〕

小田切秀雄 日本反戦文学の伝統〔「日本読書新聞」昭28・9・7〕

石丸 久 浪漫主義文学思潮―「文学界」から「明星」へ―〔「明治大正文学研究」第11号、昭28・10〕

勝本清一郎 明治の宣教師問題〔「朝日新聞」昭28・10・19朝刊〕↓〔「近代文学ノート2」〕

—— 北村透谷（中島健蔵編）〔「現代日本文学事典」〈市民文庫〉河出書房、昭28・11〕

関口宗念・本村勝夫 新体詩の成立とその展開（開国百年記念文化事業会編）〔「明治文化史」第7巻〈「文芸編」〉、

洋々社、昭28・12〕

原田隆吉 随筆・試論、その他散文（同右）

〔54〕小田切秀雄 透谷と近代文学の成立（伊藤整ほか編）〔「岩波講座 文学」4〈「国民の文学（1） 近代篇（1）」〉、

岩波書店、昭29・1〕↓〔「北村透谷論」〕

猪野謙二 日本の近代化と文学（同右）

佐藤善也 透谷の初期文学評論について〔「国語と国文学」昭29・1〕

- 竹内 好 国民文学論の深化—小田切秀雄氏との対話—（『国民文学論』東京大学出版会、昭29・1）
- 白井吉見 人生相渉論争（近代文学論争3）（『文学界』昭29・3）↓『近代文学論争』上巻、筑摩書房、昭31・10
- 宍道 達 我牢獄（『岩手大学学芸学部研究年報』第6巻、昭29・3）
- 矢野峰人 『文学界』と詩（山宮允教授華甲記念文集編集会編『近代詩の史的展望』河出書房、昭29・3）
- 岸 達志 故人を辿る—北村透谷の巻—（『近代文学攷』第2号、昭29・4）
- 野間 宏 文学における普遍性と具体性（『現代文学の基礎 いかにも人間を考えるか』理論社、昭29・4）
- 『文学界』の動き—透谷と一葉—（日本現代文学史研究会編『日本の現代文学史』三一書房、昭29・4）
- 勝本清一郎 北村透谷（近代日本のアルバム 黎明期に立った人）（『図書新聞』昭29・4・10）↓『北村透谷 選集』（『岩波文庫』解説、昭45・9。『近代文学ノート2』）
- 勝本清一郎 北村透谷（久松潜一・吉田精一編『近代日本文学辞典』東京堂、昭29・5）
- 石丸 久 文学界（同右）
- 川合道雄 北村透谷と山月子（『川合山月と明治の文学者達』基督心宗教団事務局出版部、昭29・5）
- 野間 宏（ほか）（座談会） 孤立的文学の克服（『エスポワール』昭29・6）
- 石田昭義 北村透谷小論—内部生命論をめぐる—（『六浦論叢』第3輯、昭29・7）
- 白井吉見 透谷と藤村（『文芸』臨時増刊（島崎藤村読本）、昭29・9）↓『作家控え帳』筑摩書房、昭52・4
- 中村光夫 鷗外・透谷・藤村（『日本の近代小説』（『岩波新書』岩波書店、昭29・9）

勝本清一郎 北村透谷（近藤忠義ほか編『日本文学史辞典』日本評論新社、昭29・10）

榊原美文 文学界（同右）

野間 宏 北村透谷―その「孤独性」―（『文学入門』〈現代の生活技術新書11〉春秋社、昭29・10）

岸 達志 透谷碑の移転に寄せて（『故人を辿る』〈近代文学攷〉第3輯、昭29・11）

益田道三 北村透谷とロード・バイロン（『人文研究』第5巻第11・12号、昭29・11）↓『比較文学散歩』研

究社出版、昭31・7

山極圭司 透谷・尚江・啄木―社会主義文学の性格―（『文学評論』第8号、昭29・11）

鈴木二三雄 藤村と透谷・芭蕉（『フェリス女学院短期大学論叢』Ⅰ、昭29・12）

（'55）天野 茂 文学への回心―透谷における文学と政治―（兵庫県「摂丹地区高等学校研究紀要」昭30・2）

丸山 静 近代小説の精神と方法―二葉亭と透谷―（日本文学協会編『日本の小説』Ⅱ〈日本文学講座第5巻〉、

東京大学出版会、昭30・2）↓『現代文学研究』東京大学出版会、昭31・12

安住誠悦 透谷試論―「内部生命」の構造―（『文学』昭30・3）↓『浪漫主義文学』北村透谷（日本文学

研究資料叢書）

橘 壮一 透谷と子規―明治文学評論史に関する一覚書（名古屋大学国文学研究室論集）Ⅰ、昭30・3）

勝本清一郎 北村透谷ベスト・スリー「蓬萊曲」「我牢獄」「一夕観」（『毎日新聞』（東京版）昭30・3・14朝

刊）↓『作家とその名作』毎日新聞社、昭30・10。『近代文学ノート2』

大伴ひでと 透谷と啄木（『国語国文学報』第4集、昭30・4）

笹淵友一 北村透谷の内部生命観とキリスト教（『国語と国文学』昭30・4）

伊藤 整 北村透谷が山路愛山と知り合ひ、「厭世詩家と女性」を書く〔ほか〕（『日本文壇史』3〈悩める若人の群れ〉、講談社、昭30・5）第1〜6章が透谷についての記述

笹淵友一 透谷の『宿魂鏡』について（『文学』昭30・5）

榊原美文 『文学界』（同右）↓『近代日本文学の研究』御茶の水書房、昭31・6

小田切秀雄 北村透谷について（『いやなことはいやだということ』〈がくえん新書〉法政大学出版局、昭30・6）

鈴木 豊 「内部生命論」断片考（『国語研究』第7輯、昭30・6）

北村透谷〔蓬萊曲／厭世詩家と女性〕（成瀬正勝ほか編『日本文学 現代名作事典』矢島書房、昭

30・6）

本間久雄 透谷と一葉（本間久雄ほか著『日本の近代文学―作家と作品―』東京堂、昭30・7）

勝本清一郎 目録・年譜・系譜／解題（勝本清一郎編『透谷全集』第3巻、岩波書店、昭30・9）

安倍能成 透谷の自殺その他（同右附録）／小田切秀雄 わたしの透谷（同右附録）↓『北村透谷論』

笹淵友一 透谷詩の研究（『東京女子大学附属比較文化研究所紀要』第1巻、昭30・9）

浪漫主義（片岡良一・中島健蔵監修『文学五十年』時事通信社、昭30・9）

〔S・Y〕 透谷と取組む20年 全集編集に懸命の勝本氏（ニュース横丁）（『図書新聞』昭30・9・3）

三好行雄 日本の近代化と文学―それを考えてゆくための二、三のおぼえ書―（『国語と国文学』昭30・10）

小田切秀雄 近代文学研究における文献学的研究の模範―『透谷全集』の完成―（『図書新聞』昭30・10・15）

吉田精一 北村透谷の浪漫主義（『自然主義の研究』上巻、東京堂、昭30・11）

秋庭太郎 劇文学に於ける北村透谷と藤野古白（『日本新劇史』上巻、理想社、昭30・12）

成瀬正勝 古書合戦記（『学燈』昭30・12）

野田宇太郎 透谷と長泉寺／北村透谷生家跡／追慕の碑／透谷の新しい墓所（『湘南伊豆文学散歩』英宝社、昭30・12）

〈56〉 太田三郎 雑誌『平和』について（『学苑』昭31・2）

村田平次郎 楚囚之詩は一本か否か（『学燈』昭31・2）

石垣綾子 大いなる挫折の時代―自由民権から北村透谷の自殺まで―（『近代日本恋愛史第3回』）（『婦人公論』昭31・3） ↓ 『近代日本恋愛史』角川書店、昭32・6

高坂正顕（ほか）（座談会） 自由民権の時代とキリスト教、欧化主義とキリスト教（『近代日本とキリスト教―明治篇―』基督教学徒兄弟団、昭31・4）

勝本清一郎 「楚囚之詩」は四冊（『学燈』昭31・5）

青柳 潔 靈性の愛―透谷の思想と戦い―（『文学研究』第8号、昭31・8）

石田昭義 北村透谷の神（『六浦論叢』第6輯、昭31・9）

小田切秀雄 北村透谷の登場（小田切秀雄編『講座日本近代文学史』第1巻（日本近代文学の成立（明治上））、大月書店、昭31・10）

猪野謙二 日本近代文学の目的と存在理由／『文学界』の運動と諸個性、その影響（同右）

勝本清一郎 透谷文学の生命（『北村透谷・樋口一葉集』（現代日本文学全集4）筑摩書房、昭31・10） ↓ 『北村透谷』（日本文学研究資料叢書）。『近代文学ノート2』

小田切秀雄 解説（同右）／吉田精一 透谷と一葉（同右月報）／川合信水 北村透谷君の思ひ出（同右月報）／白井吉見 第三の声（同右月報）／吉田精一 研究書目・参考文献（同右月報）

片桐禎子 透谷に於ける美の観念（『文芸研究』第24集、昭31・11）

片岡良一 近代日本文学の成立（その二）——北村透谷の『楚囚之詩』と浪漫主義——（『近代日本文学教室』〈学生ライブラリー〉旺文社、昭31・12）

〔57〕鈴木 正 思想家としての透谷（『思想』昭32・1）↓『北村透谷』（日本文学研究資料叢書）

笹淵友一 透谷は「文学界」同人ではなかったか（『東京女子大学日本文学』第8号、昭32・3）

鈴村藤一 理想主義の文学理論と透谷の立場（『名古屋大学教養部紀要』A（人文科学）、第1輯、昭32・3）

中村 完 不知庵・蘇峰・透谷——「人生相渉論争」前後——（『国文学研究』第15輯、昭32・3）

塚田満江 「物に感ずること深く」について（『女子大国文』第6号、昭32・6）

三好行雄 透谷・藤村（『西鶴と現代作家』〈解釈と鑑賞』昭32・6）

小林義正 稀数本、透谷「楚囚之詩」について（『山と書物』築地書館、昭32・7）

笹淵友一 解説（『北村透谷全集』第1巻、宝文館、昭32・7）

吉田精一 「透谷全集」の紛争をめぐって（『日本読書新聞』昭32・9・2）

勝本清一郎 透谷と幻境（『アカハタ』昭32・11・5）↓『近代文学ノート2』

平岡敏夫 透谷と「昆太利物語」（『未定稿』第4号、昭32・12）↓『北村透谷研究』

山下一海 芭蕉と透谷（『連歌俳諧研究』第15号、昭32・12）

〔58〕天野 茂 透谷から荒村へ——ゴールドスミスとの連関をめぐって——（兵庫県「榎丹地区高等学校研究紀要」昭

佐藤善也 「楚囚之詩」の成立について（『国語と国文学』昭33・2）

田中千禾夫 詩劇の歴史的橋頭堡（『文学』昭33・2）

白方 勝 「伽羅枕」及び「新葉末集」の意義（『愛媛国文研究』第7号、昭33・3）

平岡敏夫 透谷年譜訂正私見（『解釈』昭33・5）

福田準之輔 透谷文芸の特質（『日本文芸研究』第10巻第2号、昭33・6）

\* 平岡敏夫 北村透谷のアンビション 自由民権運動との関係について（『未定稿』第5、6号、昭33・7、

34・4）↓『続北村透谷研究』

榊原美文 「文学界」と浪漫主義（『国文学』昭33・8）（特集 浪漫主義文学の総合探求）

坂本 浩 北村透谷（同右）

海老池俊治 透谷と英文学（『一橋論叢』第40巻第3号、昭33・10）↓『明治文学と英文学』明治書院、昭

43・3

武田清子 北村透谷〈近代日本人物再評価 第4回〉（『婦人公論』昭33・10）

大津山国夫 「三日幻境」の背景（『国語と国文学』昭33・11）

勝本清一郎 一葉と『文学界』（和田芳恵編『樋口一葉』〈近代文学鑑賞講座3〉、角川書店、昭33・11）↓

『近代文学ノート2』

白井伸昂 透谷の諸作品と「内部生命論」（『論究日本文学』第9号付録、昭33・11）

〔59〕柳田泉・勝本清一郎・小田切秀雄・猪野謙二（座談会） 透谷を中心に（座談会・近代日本文学史5）（『文学』

昭34・1) ↓ 柳田泉ほか編『座談会明治文学史』岩波書店、昭36・6

北村透谷（川島五三郎・八木福次郎編『著者別 書目集覧』八木書店、昭34・1）

片桐禎子 北村透谷と新体詩（「ふじ」第8号、昭34・3）

鈴木 久 透谷のまぎれなき光（『福島大学学芸学部論集』第10集の2（人文科学）、昭34・3）

平岡敏夫 「楚囚之詩」の発想（『国語と国文学』昭34・3） ↓ 『北村透谷研究 第三』

色川大吉 『明治十七年読書会雑誌』について（透谷と自由民権新資料）（『文学』昭34・6）

田中千禾夫 本文および作品鑑賞（田中千禾夫編『劇文学』〈近代文学鑑賞講座22〉、角川書店、昭34・9）

「蓬莱曲」を収録

中村 完 「内部生命論」その他（『国文学研究』第20集、昭34・9）

平岡敏夫 透谷の恋愛・入信の意味（『言語と文芸』第6号、昭34・9） ↓ 『北村透谷研究』

関 良一 浪漫主義文学の文体（『国文学』昭34・10）〈特集 近代文学の文体研究〉 ↓ 『考証と試論 二葉亭

と透谷』

武田清子 北村透谷（山本健吉編『日本の思想家』光書房、昭34・11）

田中万里子 劇詩「蓬莱曲」の悲劇の構造について（『日本文学』昭34・11）

大野 宏 北村透谷の思想（『アカデミア』第25輯、昭34・12）

（'60）小田切秀雄 日本における自我意識の特質と諸形態（小田切秀雄編『近代日本思想史講座』6〈自我と環境〉、

筑摩書房、昭35・2）

勝本清一郎 近代の挫折 透谷を中心に見た日本近代思想の構造（『自由』昭35・2） ↓ 『北村透谷』〈日本文

学研究資料叢書〕。『近代文学ノート2』

寺田 博 北村透谷の精神病理学的一考察―透谷の自殺の原因をめぐって―〔国語国文学研究論文集〕第5集、昭35・3〕

福田光治 北村透谷の『エマルソン』〔立教大学「英米文学」第21号、昭35・3〕

色川大吉 北村透谷と大矢正夫―大阪事件の内面史―〔小西四郎編『日本人物史大系』第5巻〈近代I〉、朝倉書店、昭35・4〕↓『明治精神史』

辰巳光世 日本ロマン主義のイデオロギー論（上）―透谷・樗牛を中心に―〔文学〕昭35・4〕

石丸 久 北村透谷・樋口一葉の文体〔国文学〕昭35・5〕

石丸 久 蓬萊曲（吉田精一編『日本文学鑑賞辞典 近代編』東京堂出版、昭35・6）

安住誠悦 初期浪漫主義のふたつの類型―透谷と独歩を中心に―〔国語国文研究〕第16号、昭35・6〕↓

『浪漫主義文学』

笹淵友一 北村透谷〔国文学〕昭35・6〕〈特集 近代詩人の誕生〉

三好行雄 悪いめぐりあわせ〔立教大学日本文学〕第4号、昭35・6〕

坂本 浩 北村透谷〔国文学〕昭35・8〕〈特集 近代評論文学の系譜〉

佐々木幸国 斎藤緑雨のニヒリズム 透谷よりむしろ緑雨を〔六浦論叢〕第7輯、昭35・9〕

勝本清一郎 『鳳雛』出現〔日本古書通信〕昭35・10〕↓『近代文学ノート2』

勝本清一郎 透谷の一逸作について出現〔紹介〕〔文学〕昭35・10〕↓『近代文学ノート2』

木村幸雄 北村透谷〈文学と現実の接点〉〔解釈と鑑賞〕昭35・10、臨時増刊〈近代作家の研究法〉

- 色川大吉 困民党と自由党―武相困民党をめぐる―（『歴史学研究』昭35・11）（特集 自由民権期）↓『困民党と自由党』揺籃社、昭59・9
- 笹淵友一 北村透谷（二）〈評論〉（木俣修ほか編『人と作品 現代文学講座』第2集〈明治編Ⅱ〉、明治書院、昭35・11）
- 中村 完 作品の解説／笹淵友一 北村透谷（二）〈詩〉／笹淵友一・木俣 修 作品の解説（同右）／川副国基 研究余談／木俣 修 『三籟』のこと／長谷川泉 発見された透谷の逸文（同右月報）
- 瀬沼茂樹 近代思想と評論（『国文学』昭35・11）〈特集 近代評論の系譜（第二）〉
- （61）安住誠悦 浪漫主義における意志的自我―透谷・独歩・樗牛をめぐる―（『国語国文研究』第18・19号、昭36・3） ↓『浪漫主義文学』
- 片桐禎子 「文学界」の一位相（同右）
- 白井伸昂 透谷私論（論究日本文学）第14号、昭36・3）
- 橋浦兵一 透谷の「情熱」（『文科紀要』第7集、昭36・3） ↓『北村透谷』（日本文学研究資料叢書）
- 山口水緒子 透谷雑感―「春」を読んで―（『多摩文化』第6号、昭36・3）
- 本木 肇 北村透谷の悲劇（『西域』第2号、昭36・6）
- 吉田精一 浪漫主義の成立と展開（『岩波講座 日本文学史』第11巻〈近代〉、岩波書店、昭36・6） ↓『浪漫主義の研究』東京堂出版、昭45・8
- 色川大吉 透谷の足跡を追って（『八王子観光だより』昭36・7） ↓『明治の精神』筑摩書房、昭43・10
- 笹淵友一 人生に相渉論争（『解釈と鑑賞』昭36・7）〈特集 近代文学論争事典〉

平岡敏夫 北村透谷と中西梅花（『国文学』昭36・8）〈特集 近代詩人における人間研究〉↓『北村透谷研究』

笹淵友一 明治前期のキリスト教と文学（『国文学』昭36・9）〈特集 近代初期の文芸思潮〉

平岡敏夫 北村透谷と山路愛山（同右）↓『北村透谷研究』

野田宇太郎 北村透谷（『日本近代詩事典』青蛙房、昭36・9）

山田博光 北村透谷（近代文学懇談会編『近代文学研究必携』学燈社、昭36・9）

色川大吉 自由民権の地下水を汲むもの―北村透谷と石坂公歴―（『歴史学研究』昭36・11）↓『明治精神史』

小田切秀雄 北村透谷と『文学界』グループその他（『文学史』〈現代史大系〉東洋経済新報社、昭36・11）↓

#### 『北村透谷論』

吉田精一 北村透谷（『鑑賞現代詩』1〈明治〉、筑摩書房、昭36・11）「蝶のゆくへ」「眠れる蝶」を収録

\*天野敬太郎 北村透谷（現代作家書誌案内6、36）（『日本古書通信』昭36・12、39・12）

飛鳥井雅道 欽定憲法のもとで／急進主義と進歩主義の対立の評価―とくに透谷対民友社の問題―（『日本の

近代文学』〈さんいち・らいぶらり18〉三二書房、昭36・12）

山田宗睦 北村透谷の思想経綫／「明治青年」の同時代史的な閱歴／「明治青年」の哲学的方向―大西祝と透

谷をめぐって／透谷の「内部生命論」と西田『善の研究』（『日本型思想の原像―西田幾太郎の哲学―』〈さ

んいち・らいぶらり19〉三二書房、昭36・12）

〈62〉天野 茂 明治の青年―北村透谷の意味―（兵庫県「摂丹地区高等学校研究紀要」昭37・2）

岡野他家夫 浪漫主義文学を培った「文学界」（『近代日本名著解題』有明書房、昭37・3）

平岡敏夫 透谷における「文学史」（『文学史の会編』『近代文学の検討』〈論集「文学史」第1輯〉、白帝社、昭

37・3) ↓「北村透谷研究」

平岡敏夫 北村透谷と三多摩―透谷における「故郷」の意識―〔国文学〕昭37・3) ↓「北村透谷研究」

平岡敏夫 北村透谷における詩と散文〔日本文学〕昭37・3) ↓「北村透谷研究」

天野 茂 透谷から荒村へ ゴールドスマスの詩“The Deserted Village”との関連をめぐって〔松岡荒村―

埋もれた明治の青春〕ペリカン書房、昭37・4)

色川大吉 『文学界』―透谷と第一次『文学界』同人の思想をめぐって―〔日本の思想雑誌〕〔思想〕昭37・

4)

鹿野政直 天皇制確立期における抵抗の精神〔日本歴史〕昭37・4)

村上 一郎 透谷と西田幾太郎―山田宗睦『日本型思想の原像』への疑義二・三―〔日本文学〕昭37・4)

磯貝英夫 想実論の展開―忍月・鷗外・透谷―〔国文学攷〕第28号、昭37・5) ↓『森鷗外』明治書院、昭

54・12

勝本清一郎 近代日本文学の曙(伊藤整ほか編『鑑賞と研究 現代日本文学講座』小説1、三省堂、昭37・5)

平岡敏夫 透谷像への試論―その「国民」へのアプローチ―〔国語と国文学〕昭37・6) ↓「北村透谷研究」

色川大吉 北村透谷(日本の思想家 この百年15)〔朝日ジャーナル〕昭37・6・17)

色川大吉 北村透谷と秋山国三郎―「三日幻境」と川口村での生活―〔多摩文化〕第11号、昭37・8)

多摩文化研究会 明治の村落―川口村研究(同右)

笹淵友一 「文学界」をめぐって(「本の手帖」第2巻第8号、昭37・9)

島田 厚 「国民之友」と純文学理念(「文学」昭37・10)

平岡敏夫 北村透谷（伊藤整ほか編『鑑賞と研究 現代日本文学講座』評論・隨筆1〈明治期〉、三省堂、昭37・10）「内部生命論」を収録 ↓「北村透谷研究」

飛鳥井雅道 北村透谷『徳川氏時代の平民的理想』（桑原武夫編『日本の名著―近代の思想』（中公新書1）中  
央公論社、昭37・11）

色川大吉 明治二十年代の文化（家永三郎ほか編『岩波講座 日本歴史』17〈近代4〉、岩波書店、昭37・11）

滝瀬爵克 透谷とナシヨナリズム―「教育と宗教の衝突」論争をめぐる―（『文学研究』第18号、昭37・11）

中山栄暁 米九升七合なり―北村透谷の日記から―（『解釈』昭37・11） ↓『作家の姿勢』教育出版センター、  
平6・6

平岡敏夫 北村透谷論（過渡期の文学（1））（『早稲田大学新聞』第88号、昭37・11・19） ↓『続北村透谷研究』

大野 宏 「文学界」の運動―北村透谷の「内部生命論」を中心として（『南山文学』第5号、昭37・12）

木村幸雄 「双蝶のわかれ」（伊藤整ほか編『鑑賞と研究 現代日本文学講座』詩、三省堂、昭37・12）

西村博子 北村透谷―その新劇史における評価のための試論―（『演劇学』第4号、昭37・12）

（63）滝瀬爵克 北村透谷の思想と文学の端緒―その媒体としてのキリスト教思想の触発をめぐる―（『日本文学』

昭38・1）

色川大吉 透谷の「幻境」行―勝本清一郎説訂正のための考証―（『東京経済大学人文自然科学論集』第2号、

昭38・2）

片桐禎子 透谷評価の跡をめぐる―（『藤女子大学文学部紀要』第2号、昭38・3）

高橋正夫 ヒューマニズムに於ける汎神論的契機―試論・北村透谷―（『倫理学年報』第12集、昭38・3）

- 中山栄暁 透谷と一葉の錯行（「解釈」昭38・4）↓『作家の姿勢』教育出版センター、平6・6
- 木村幸雄 透谷・「国民と思想」の意味（「言語と文芸」第5巻第3号、昭38・5）
- 野田宇太郎 透谷と東京タワー（「くうりえ」昭38・5）
- \*田村 栄 透谷―その孤独なたたかい―死去の日、五月十六日によせて―（「アカハタ」昭38・5・16、17）
- 新井洋一 巖本善治と北村透谷（「意識」第11号、昭38・6）↓磯崎嘉治編『巖本善治』共栄社出版、昭49・10
- 小田切秀雄 北村透谷（作家論の扱い方）（岩城之徳ほか編『近代文学研究必携』学燈社、昭38・6）↓『北村透谷論』
- 福田光治 エマスンと北村透谷（「立教大学日本文学」第10号、昭38・6）
- 安本美典 分裂気質の作家（『創作の秘密 作家の性格と心理』（ヒューマン・ブックス）誠信書房、昭38・6）
- 中山栄暁 北村透谷と「読売新聞」―手帳・日記に録された事実から―（「解釈」昭38・7）↓『作家の姿勢』教育出版センター、平6・6
- 勝本清一郎 北村透谷（大内兵衛編『語録 永遠の言葉』（世界教養全集別巻4）平凡社、昭38・9）
- 中島洋一 「楚囚之詩」の本質（『日本文芸研究』第15巻第3号、昭38・9）
- 平岡敏夫 蓬萊曲―北村透谷―（『日本近代文学の名著』（『国文学』昭38・9、臨時増刊）
- 関 良一 文学界（明治・大正・昭和の文芸雑誌）（同右）
- 瀬沼茂樹 透谷と柳村（『文学界』復刻版別冊、日本近代文学研究所、昭38・10）↓『明治文学研究』法政大学出版局、昭49・5

小田切秀雄 「文学界」創刊をめぐる——北村透谷と星野天知との関係、その他——(同右) ↓ 『北村透谷論』／西田 勝 解説(同右)

平岡敏夫 北村透谷の思想(『国文学』昭38・10)〈特集 近代作家と思想〉 ↓ 『北村透谷研究』

大石智良 北村透谷と民衆(『日本文学』昭38・11)

斎藤 光 透谷とエマソン(『学鏡』昭38・12)

中島洋一 「蓬莱曲」の主題と構成(『日本文芸研究』第15巻第4号、昭38・12)

平岡敏夫 山路愛山の文学——明治二〇年代を中心として——(『国語と国文学』昭38・12)

真嶋恒雄 「戦ひの人」としての透谷について——「人生相渉論」を中心に——(『国語教育研究』第8号、昭38・12)

〈'64〉舟橋聖一 透谷夫人美那子(私の会った人8)(『朝日新聞』昭39・1・29朝刊)

安住誠悦 「文学界」の人びと(『国文学』昭39・2)〈特集 近代文学と結社・流派〉

天野 茂 北村透谷の生命主義——そのシェレー的性格——(兵庫県「撰丹地区高等学校研究紀要」第12号、昭39・2)

鈴木孝一 北村透谷における平和思想について(『史海』第11号、昭39・3)

滝瀬爵克 北村透谷の思想と文学のいとぐち——そのキリスト教思想との関係をめぐって——(潤徳学園「うるおい」昭39・3)

—— 北村透谷(『小田原史談』第29号、昭39・3)

安住誠悦 Rigorismの伝統(『位置』第4号、昭39・4) ↓ 『浪漫主義文学』

平林 一 平和主義に於ける木下尚江と北村透谷（憲法研究所編『平和思想史』〈憲法研究所特集2〉憲法研究所出版会、昭39・4）

山岡桂二 陸羯南と北村透谷の場合―歴史的・浪漫的な政治的・人間的主体性―（『日本近代思想史に於ける政治と人間』東峰出版、昭39・4）

中央大学文学会 北村透谷―浪漫性について―（『学術論叢』第14号、昭39・4）

石橋道子 透谷について（佐藤喜一編『橋本佳先生還暦記念文集』文集刊行会、昭39・5）

〔帆〕 透谷の詩劇「蓬萊曲」の女性プロデューサー 名田房代さん（ごめん下さい）（『婦人民主新聞』昭39・5・24）

阿部知二（ほか）「蓬萊曲」（透谷没後七十周年記念公演パンフレット）（名田房代プロダクション、昭39・6）

〔悦〕 透谷の未発見小説〈足跡〉（『北海道新聞』昭39・6・19夕刊）

尾崎宏次 「蓬萊曲」と「わざおぎのふるさと」をみて（『テアトロ』昭39・8）

斎藤 光 透谷が「エマルソン」に用いた参考書（土居光知先生喜寿記念論文集編集委員会編『英文学試験

土居光知先生喜寿記念論文集』研究社出版、昭39・8）

〔M〕 北村透谷の筆跡（『小田原史談』第34号、昭39・8）

秋山 駿 内部的なもの―透谷以後（『文芸廻評』）（『文学者』昭39・10）

渡辺外喜三郎 斎藤緑雨の評論と透谷の緑雨評（『国語国文薩摩路』第9号、昭39・10）

安住誠悦 「文学界」浪漫主義と中世―透谷・禿木・藤村をめぐって―（『日本文学』昭39・11）↓『浪漫主義文学』

勝本清一郎 北村透谷と「文学界」（日本近代文学館編『日本の近代文学』読売新聞社、昭39・11）↓『近代文学ノート2』

フランシス・マシー 透谷の意義（『比較文学』第7巻、昭39・11） 武田勝彦訳

村田 昇 北村透谷の仏教（『密教文化』第69・70号、昭39・11）

高橋正夫 透谷の江戸文学論（『心』昭39・12）

橋浦兵一 自責の文学―透谷・藤村の連関基調―（『宮城学院女子大学研究論文集』25、昭39・12）

藤井信乃 初期の透谷（『国文学論考』創刊号、昭39・12）

〈65〉色川大吉 石坂公歴論（『東京経済大学人文自然科学論集』第7号、昭40・1）

永平和雄 近代戯曲史序説（上）―再検討のためのノート―（『文学』昭40・1）

色川大吉 透谷と演劇―日本新劇史を拓くもの―（『文学』昭40・2）

中村光夫 透谷と独歩（『言葉の芸術10』（『群像』昭40・2））↓『言葉の芸術』講談社、昭40・8

中山栄暁 透谷と文体（『日本文学』昭40・2）↓『作家の姿勢』教育出版センター、平6・6

木戸清平 北村透谷と水戸―父快蔵の履歴書とあわせて―（『郷土文化』第6号、昭40・3）↓『近代文学と

茨城』木戸清平遺稿刊行会、昭47・1

\*藤本敏夫 北村透谷ノート（『クラレット・サマージュ』第1、3号、昭40・3、41・12）

小田切秀雄 北村透谷の位置と意味―文学理念喪失の状況にたいして―（『国文学』昭40・4）〈特集 明治文

学の問題点〉↓『北村透谷論』

中村光夫 作品解説（『北村透谷集 附文学界派』（日本現代文学全集9）講談社、昭40・4）

- 小田切秀雄 北村透谷入門（同右）↓「北村透谷論」／色川大吉 北村透谷年譜（同右）／平岡敏夫 北村透谷参考文献目録（同右）／小田切秀雄 戸川残花の遺族と樋口一葉―研究余滴―（同右月報）↓「北村透谷論」／宮川 透 北村透谷の位置（同右月報）／勝本清一郎 蓬萊曲の上演（同右月報）↓「近代文学ノ一ト二」
- 中山栄暁 北村透谷と「昆太利物語」〔「解釈」昭40・5〕↓「作家の姿勢」教育出版センター、平6・6
- 石阪幹将 透谷雑感―（その1）恋愛について―〔「新しい樹」第7号、昭40・6〕
- 鍋島能弘 批評―透谷の場合〔「解釈と鑑賞」昭40・6〕
- 山下一海 芭蕉と北村透谷〔「中興期俳諧の研究」桜楓社、昭40・6〕
- 西田 勝 鷗外・透谷紀元の提案〔「図書新聞」昭40・6・12〕
- 川合道雄 「文学界」時代の基督教と基督教者の実態〔「山月子回顧ノート―近代の文人・思想家たち―」〈学道叢書1〉基督教団事務局出版部、昭40・7〕
- 山田宗睦 透谷の水脈〔「文学」昭40・8〕
- \* 桶谷秀昭 思想的回転の暗黒／情況の奈落／内部生命、自然、死／詩的根拠―透谷詩の表出位置―〔北村透谷論〕〔「無名鬼」第4、6、8号、昭40・10、41・5、10、42・12〕↓「近代の奈落」
- 平岡敏夫 文学界〔「解釈と鑑賞」昭40・10、臨時増刊〈近代文学雑誌事典〉〕↓長谷川泉編「近代文学雑誌事典」至文堂、昭41・1
- \* 源 了円 北村透谷の思想的課題とその自殺―日本の近代化と知識人の自殺（2）―〔「心」昭40・10、41・2〕

中山栄暁 藤村操―遺書の一句 ―透谷につなげて―〔解釈〕昭40・11)

長谷川泉 北村透谷(久松潜一ほか編『現代日本文学大事典』明治書院、昭40・11)

小田切秀雄 北村透谷の文学〔国文学〕昭40・12、臨時増刊〈近代文学鑑賞の手帖〉)

北住敏夫 北村透谷の文芸理論〔近代日本の文芸理論〕塙書房、昭40・12)

高田瑞穂 生きた透谷・死んだ透谷〔本の手帖〕第5巻第10号、昭40・12)〈特集 作家と自殺〉

〈66〉三田博雄 ロマン精神 とくに北村透谷と登山〔岳人〕昭41・1)

大野幸子 シェリ・透谷を中心とする一比較文学的考察〔大谷学報〕第45巻第3号、昭41・3)

小玉晃一 北村透谷の日記〔本の手帖〕第6巻第2号、昭41・3)〈特集 作家の日記〉↓『比較文学の周辺』

笠間書院、昭48・7

高橋正夫 浪漫的キリスト者の運命―透谷とキリスト教・覚書―〔倫理学年報〕第15集、昭41・3)

田畑 忍 明治二十年代の平和思想―北村透谷と内村鑑三の場合―〔同志社法学〕第97号、昭41・3)

平岡敏夫 「厭世詩家と女性」「我牢獄」〔言語と文芸〕第45号、昭41・3) ↓『北村透谷研究』

榎林混二 北村透谷と徳富蘇峰〔国文学攷〕第39号、昭41・3) ↓『北村透谷と徳富蘇峰』

片桐禎子 透谷評価のあと(続)〔藤女子大学文学部紀要〕第4号、昭41・7)

\*北川 透 詩の原理への試論〔日本読書新聞〕昭41・7・25、8・1、8)

吉田精一 透谷と樗牛―ロマンチズムの評論―〔日本の文学〕6(市民の文学I)、至文堂、昭41・8)

\*中山和子 北村透谷〔文芸研究〕第16、17号、昭41・10、42・3) ↓『北村透谷』(日本文学研究資料叢書)

木村 毅 情熱の人―北村透谷(明治大正文学夜話第24回)〔解釈と鑑賞〕昭41・12) ↓『明治文学夜話 近

代精神と文壇』至文堂、昭50・11

〈67〉三好行雄 複眼について―「春」と「文学界」―〔藤村全集〕第3巻月報、筑摩書房、昭42・1

柳田 泉 透谷と藤村（同右）

安住誠悦 最近における透谷研究の展望〔国文学〕昭42・2〕↓『浪漫主義文学』

野田宇太郎 透谷の墓（『文学の故郷』大和書房、昭42・2）

猪野謙二 内部生命論（吉田精一ほか編『近代文学名作事典』学燈社、昭42・3）

色川大吉 多摩と透谷周辺の人びと―亡びゆく明治の面影―〔図書〕昭42・3〕↓『明治の精神』筑摩書房、

昭43・9

片桐禎子 透谷論覚え書／「民衆」北村透谷号解題・復刻／近代文学研究叢書2 北村透谷資料年表（正誤表）

〔藤女子大学国文学雑誌〕第1号、昭42・3）

小松 博 透谷の文学観（『国語教育―研究と実践―』第4号、昭42・3）

実方 清（ほか） 明治文芸における基督教の受容（『関西学院大学共同研究紀要』I（明治研究）、昭42・3）

久山 康（ほか） 日本の近代化と伝統（同右）

篠崎寿子 北村透谷と山路愛山（『法政大学大学院日本文芸批評史ゼミナール論集』昭42・3）

香川良成 北村透谷の演劇観―「蓬萊曲」より「劇詩の前途如何」へ―（同右）

森下幸雄 北村透谷―愛と死をめぐる―（『土佐の教育』第2号、昭42・3）

中山栄暁 透谷と俳句（『解釈』昭42・4）↓『作家の姿勢』教育出版センター、平6・6

玉井乾介 眼の人・執念の人 勝本清一郎氏のこと（『図書新聞』昭42・4・15）

井上 弘 「実」の思想・「虚」の思想―「人生相渉論争」に関連して―（「かながわ高校国語の研究」第3集、昭42・5）

勝本清一郎 北村透谷と島崎藤村（同右）

福田光治 北村透谷とキリスト教（「本の手帖」昭42・5）（特集 近代日本文学とキリスト教）

榎林 滉二 北村透谷と徳富蘇峰―その文明批評の関連性について―（「日本近代文学」第6集、昭42・5）↓

『北村透谷』（日本文学研究資料叢書）。『北村透谷と徳富蘇峰』

窪川精治 「楚囚之詩」の思い出（「日本古書通信」昭42・6）

八木福次郎 三十銭が八十万円に 「楚囚之詩」拾遺（同右）

平岡敏夫 自由民権思想とキリスト教（「解釈と鑑賞」昭42・6）

福田光治 エマソンと北村透谷（「日米フォーラム」第13巻第6号、昭42・6）

平岡敏夫 透谷から藤村へ（三好行雄編『島崎藤村必携』（日本文学必携シリーズ7）学燈社、昭42・7）↓

『北村透谷研究』

関 良一 近代文学と謡曲（「観世」昭42・8）↓『考証と試論 二葉亭・透谷』

佐藤 勝 徳富蘇峰と北村透谷―明治二十年代文学とキリスト教との関連・その一面―（「国語科通信」第6号、昭42・9）

号、昭42・9）

平岡敏夫 自由民権運動と文壇―透谷・独歩のアンビションを中心に―（「国文学」昭42・9）↓『日本近代

文学史研究』有精堂出版、昭44・6

佐藤泰正 濃情―透谷にふれて―（「兄弟」第141号、昭42・10）↓『文学と宗教の間』国際日本研究所、昭

中島義生 北村透谷と悪のすすめ（「理想」昭42・10）

中村光夫 人と文学（『坪内逍遙・二葉亭四迷・北村透谷集』（現代文学大系1）解説、筑摩書房、昭42・10）

平岡敏夫 透谷と国府津・小田原（同右月報）↓『北村透谷研究 第三』／三好行雄 感傷的な透谷像（同

右月報）

\*佐藤直彦 北村透谷伝（『NEO APRES GUERRE』創刊、2号、昭42・11、43・6）

佐藤泰正 透谷とキリスト教—評論とキリスト教に関する一試論—（『日本近代文学』第7集、昭42・11）↓

『文学と宗教の間』国際日本研究所、昭43・7。『北村透谷』（日本文学研究資料叢書）

\*浅野 晃 透谷における桃青／北村透谷の死（『日本俳人伝』（俳句研究）昭42・12、43・2）

色川大吉 新透谷像の出現—平岡敏夫氏の近業に寄せて—（『思想』昭42・12）

宍道 達 明治二十六年創刊『文学界』の文学運動』研究覚書の中「文学界」同人の筆名（『広島女学院大学

論集』通巻第17集、昭42・12）

高橋 渡 『風流』を巡っての透谷像鳥瞰 北村透谷論1（『知己』第9号、昭42・12）

中山和子 透谷と愛山—文学概念の対立をめぐって—（『文学』昭42・12）

楨林滉二 内部生命論の流れ—北村透谷を中心に—（『近代文学試論』第4号、昭42・12）

〈68〉竹田日出夫 「宿魂鏡」の成立過程（『日本文学』昭43・1）↓『渴仰と復活の挿画』

福田和子 「楚囚之詩」における符号について（『文芸論叢』第4号、昭43・2）

阿部正路 序説・北村透谷（『批評』第11号、昭43・3）↓『疎外者の文学』桜楓社、昭46・1

橋浦兵一 明治文学の主題語―「人情」と「情熱」―〔宮城教育大学紀要〕第2巻、昭43・3〕↓『作家の育てたことば』南雲堂、昭60・5

平岡敏夫 透谷の「文学」像〔「文学」昭43・3〕↓『日本近代文学史研究』有精堂出版、昭44・6。『続北村透谷研究』

色川大吉 透谷と蒼海―「大矢正夫自徐伝」の発見によせて―（同右）

鈴木龍二 「大矢正夫自徐伝」のこと（同右）

野田宇太郎 透谷の墓（首都圏掌篇文学散歩23）〔「毎日新聞」昭43・3・30朝刊〕

桶谷秀昭 近代文学におけるナシヨナリテイ―北村透谷の場合―〔「東洋学術研究」第7巻第1号、昭43・4〕

↓『増補版 土着と情況』国文社、昭44・8

桶谷秀昭 仮構の倫理―近代想像力の奈落〔「文芸」昭43・4〕↓『仮構の冥暗』冬樹社、昭44・12

佐藤善也 「蓬萊曲」の世界―透谷の自画像―〔「国語と国文学」昭43・4〕↓『北村透谷』〔日本文学研究資料叢書〕

料叢書〕

石崎一正 歌え汝が泰平の歌を―北村透谷伝―〔「現代演劇」4、昭43・5〕

川俣晃自 透谷のことなど（「月に嘯く」）〔透谷生誕百年記念上演パンフレット〕文化座、昭43・6〕

貝山武久 月に嘯く（同右）

平岡敏夫 北村透谷（「国文学」昭43・6、臨時増刊〔現代文学研究の手帖〕）

\* 山木幸一 西行享受史稿―文学界前後―〔「釧路工業高等専門学校紀要」第2、3号、昭43・6、44・6〕↓

『西行和歌の形成と受容』明治書院、昭62・5

北村透谷（木俣修編『文士の筆跡』3（詩人篇）、二玄社、昭43・6）

佐藤泰正 文学と宗教―藤村から透谷へ。あるいはキリスト教土着化の問題にふれて―（『解釈と鑑賞』昭

43・7）↓『文学 その内なる神』桜楓社、昭49・3

\*北川 透 北村透谷・試論（「あんかるわ」第19、20、22、31、33、34、36、42号、昭43・8、12、44・7、12、45・4、8、12、46・3、7、11、47・3、7、48・4、7、12、49・4、8、11、50・3、6、10）  
↓『〈幻境〉への旅』（29号まで）。『内部生命の砦』（42号まで）。『〈蝶〉の行方』

\*野山嘉正 「内部生命論」における世界像の変質―透谷試論―（『国語と国文学』昭43・8、9）↓『北村透谷』（『日本文学研究資料叢書』）

小沢勝美 北村透谷像について―平岡・色川・桶谷氏の問題提起を中心に―（『日本文学』昭43・9）↓『北

村透谷 原像と水脈』

中野敬次郎 北村透谷（『小田原近代百年史』）形成社、昭43・9）

笹淵友一 最も高く見、遠く見た人 北村透谷の生誕百年にあたって（『サンケイ新聞』昭43・9・7夕刊）

大山 功 北村透谷（『近代日本戯曲史』1（明治篇）、近代日本戯曲史刊行会、昭43・10）

福田光治 エマソンと北村透谷（『比較文学』第11巻、昭43・10）英文と和文要旨

前田 愛 透谷伝の一資料（成蹊大学「文学部ニュース」昭43・10）

浅川 淳 北村透谷について（『日本近代小説覚え書』中央大学出版部、昭43・11）

加藤晋一 透谷から啄木へ（『文化評論』昭43・11）

作田啓一 恋愛観と家族観―北村透谷と巖本善治―（古田光ほか編『近代日本思想史大系』1（近代日本社会

思想史Ⅰ)、有斐閣、昭43・11) ↓ 『仮構の感動』 筑摩書房、平2・6

佐藤泰正 透谷と藤村 (『日本近代詩とキリスト教』 新教出版社、昭43・11)

平岡敏夫 近代文学者の思想家としての意義―透谷・漱石にふれて― (『東書高校通信 国語』 昭43・11)

平岡敏夫 透谷像について―小沢氏の「整理」に反論する― (『日本文学』 昭43・11)

―― 『まぼろし』の初版 北村透谷「楚囚之詩」 (『名著複刻全集近代文学館 出版ニュース』 第8号、昭43・11)

加藤晋一 北村透谷生誕百年によせて (『赤旗』 昭43・11・23)

小田切秀雄 北村透谷「楚囚之詩」 (『名著複刻全集編集委員会編『名著複刻全集近代文学館作品解題』 明治前

期―』 日本近代文学館、昭43・12) ↓ 『北村透谷論』

壺井繁治 透谷についての小さな感想―その生誕百年に寄せて― (『文化評論』 昭43・12)

〈69〉 清水 茂 明治の革命―透谷と秋水― (『解釈と鑑賞』 昭44・1)

\* 高橋正幸 日本平和会覚書 (『桐朋学報』 第18、20号、昭44・1、45・12)

かじてつや 北村透谷―奈落思想に対する気鬱病の功罪― (『現代文学者の病蹟12』 (『中外医薬』 昭44・2) ↓

春原千秋・梶谷哲男『現代文学者の病蹟』 新宿書房、昭46・6

阪本越郎 北村透谷 (伊藤信吉ほか編『現代詩鑑賞講座』 2 (『新しき詩歌の時代 (近代詩篇Ⅰ)』)、角川書店、

昭44・2) 「楚囚之詩 (抄)」 「蓬萊曲 (抄)」 「眠れる蝶」 「蝶のゆくへ」 を収録

松田芳子 「蓬萊曲」 よりみる北村透谷 (『国文学ノート』 第6号、昭44・3)

山田 肇 透谷の場合 (秋庭太郎編『明治近代劇集』 (『明治文学全集86』) 月報、筑摩書房、昭44・3)

- \*小田切秀雄 日本近代文学史把握と透谷観の問題（『文学』昭44・4～7）↓『北村透谷論』  
笹淵友一 文学自律と文学功用論―人生相渉論争をめぐる透谷と愛山―（『講座日本文学の争点』5〈近代編〉、  
明治書院、昭44・4）↓『明治大正文学の分析』明治書院、昭45・11
- 前田 愛 近世から近代へ―愛山・透谷の文学史をめぐる―（『講座日本文学』9〈近代篇Ⅰ〉、三省堂、昭  
44・4）↓『幕末・維新期の文学』法政大学出版局、昭47・10
- 越智治雄 劇詩の季節（同右）↓『明治大正の劇文学』塙書房、昭46・9
- \*増淵恒吉 「北村透谷の生涯」〈学習指導〉（『国語展望』第22～24号、昭44・4、10、45・2）
- 佐藤泰正 近代文学とキリスト教―透谷・芥川を軸として―（『講座日本文学』10〈近代篇Ⅱ〉、三省堂、昭  
44・5）
- 藪 禎子 北村透谷における国民・民衆の問題（『日本近代文学』第10集、昭44・5）
- 伊藤敬一 『文学界』における浪漫主義の構造 平田禎木・戸川残花・北村透谷をめぐる（『法政大学教養  
部紀要』通巻第13号、昭44・6）
- 紅野敏郎・佐々木啓之 北村透谷年譜／著作目録（『北村透谷・山路愛山集』〈現代日本文学大系6〉筑摩書房、  
昭44・6）
- 丸山 静 透谷について（同右月報）／石丸 久 愛山・透谷論争の前後（同右月報）／谷沢永一 北村透  
谷・山路愛山研究案内（同右月報）
- 桶谷秀昭 北村透谷の批評精神（『中央大学新聞』昭44・6・24）↓『仮構の冥暗』冬樹社、昭44・12
- 阿部知二 近代日本の反戦の歴史（『良心的兵役拒否の思想』〈岩波新書〉岩波書店、昭44・7）

藪 禎子 北村透谷〔「解釈と鑑賞」昭44・7〕〈特集「近代文学研究史」論〉

藪 禎子 透谷晩年の境地（藤女子大学国文学雑誌）第5・6合併号、昭44・7）

石阪幹将 北村透谷論―その孤立・孤独の意味―（NEO APRES GUERRE (NAG)）第4号、昭44・8）

平岡敏夫 透谷・愛山評価と近代文学史像（「文学」昭44・8）↓『統北村透谷研究』

三浦泰生 北村透谷についての覚え書き―そのキリスト教信仰の意味―（「日本文学」昭44・8）↓『近代文学についての私的覚え書き』近代文芸社、昭58・12

島本 恒 透谷祭の記録―二十二年を中心に―（「西相文学」第8号、昭44・9）

平岡敏夫 戦後の文学史像と透谷像（「文学」昭44・9）↓『統北村透谷研究』

三浦 仁 北村透谷（吉田精一・分銅惇作編『近代詩鑑賞辞典』東京堂出版、昭44・9）「蝶のゆくへ」を収録

笠原芳光 美的なものとの宗教的なもの―北村透谷の場合―（[Energy] 第6巻第4号、昭44・10）↓『信と不

信の文学』未来社、昭56・11

中村 完 「楚囚之詩」考（透谷論）（『日本近代文学』第11集、昭44・10）↓『北村透谷』（日本文学研究資料叢書）

平岡敏夫 透谷文学の魅力―地底と天空と―（「文学」昭44・10）↓『統北村透谷研究』

北川 透 抒情における近代と反近代の原点（「解釈と鑑賞」昭44・11）↓『北川透詩集』（現代詩文庫48）  
思潮社、昭47・6。『蝶』の行方』

桶谷秀昭 北村透谷―近代の暗冥―（同右）↓『凝視と彷徨』上、冬樹社、昭46・9

- 北川 透 幻の透谷・非人称の憑人―吉増剛造『頭脳の塔』について―（『現代詩手帖』昭44・11）↓『幻野の渴き』思潮社、昭45・9
- 坂本 浩 浪漫精神の一特質―マリア的なもの―（『成城国文学論集』第2輯、昭44・11）↓『近代作家の深層心理』明治書院、昭49・9
- 桶谷秀昭 情況'69 11月〈文学・思想〉（『日本読書新聞』昭44・11・17）↓『凝視と彷徨』下、冬樹社、昭46・9
- 鹿野政直 市民的変革思想の観念論的展開（『資本主義形成期の秩序意識』筑摩書房、昭44・12）
- （'70）上村武男 北村透谷の死（『帰巢者の悲しみ』上村武男、昭45・1）
- 長谷川勉 ファウストとマンフレッドに関する一考察（『学苑』昭45・2）
- 渡辺 奨 北村透谷と樋口一葉（『年刊町田ジャーナル』一九七〇年版、昭45・2）
- 小牧久美子 透谷における自我解放の方向（『国文学論叢』第15輯、昭45・3）
- 沼 謙吉 北村透谷〈川口を愛した人びと〉（『郷土・川口の歴史』八王子市立川口中学校PTA、昭45・3）
- 平岡敏夫 透谷の文学（『日本文化の歴史』12〈開化の日本〉、学習研究社、昭45・3）↓『続北村透谷研究』槇林晃二 北村透谷における歴史意識―「史」の問題―（『広島文教女子大学研究紀要』第4巻、昭45・3）
- 小林一郎 北村透谷（『近代作家素描論』創研社、昭45・4）
- 辻本雄一 透谷の「明治文学管見」について―「文学」意識と「文学史」意識の狭間から―（『日本文学』昭45・4）
- 吉田精一 近代作家の見た芭蕉（加藤楸邨編『芭蕉の本』第2巻〈詩人の生涯〉、角川書店、昭45・4）

桶谷秀昭 明治散文の思想と文体―鑑三、愛山、透谷、諭吉（『国語通信』第126号、昭45・5）↓『凝視と彷徨』上、冬樹社、昭46・9

中野敬次郎 北村透谷の祖父北村玄快と父北村快蔵（小田原医家伝その12）（『やまびこ』第30号、昭45・5）

和田周三 自然・人生・文学―北村透谷の場合―（『ポトナム』第529号、昭45・5）

小牧久美子 北村透谷の文学観―人生相渉論争を通して―（『龍谷大学仏教文化研究所紀要』第9集、昭45・

6）

\*坂口博志 北村透谷・ノート（『契機』第2、3号、昭45・6、46・2）

清水 茂 書かれざる「狭穂姫」と「宿魂鏡」―透谷文学の一面―（『国文学研究』第42集、昭45・6）↓

『北村透谷』（『日本文学研究資料叢書』）

平岡敏夫 人生相渉論争（『解釈と鑑賞』昭45・6）↓『続北村透谷研究』

瀬沼茂樹 解説（谷崎潤一郎ほか編『日本の文学』77（名作集（一））、中央公論社、昭45・7）「人生に相渉

るとは何の謂ぞ」を収録。他に注解・年譜

辻本雄一 透谷の「富士」登山―明治十七年の透谷のすがた―（『日本文学』昭45・8）

楨林滉二 横井小楠実学の一系譜―いわゆる透谷的なるものの反指定―（同右）↓『北村透谷と徳富蘇峰』

野山嘉正 北村透谷『蓬萊曲』 柳田素雄の「おのれ」（『国文学』昭45・8）

小田切秀雄 『北村透谷論』の書評に反駁する 桶谷秀昭氏へ（『日本読書新聞』昭45・8・17）

玉井乾介 注解（『北村透谷選集』（岩波文庫）岩波書店、昭45・9）

\*本多 仁 北村透谷『内部生命論』ノート―蘇峰・透谷・愛山をめぐる―（『情念』第1〜3号、昭45・9、

46・2・9)

本間久雄 明治浪漫派運動序説―透谷と藤村と―（『立正大学文学部論叢』第38号、昭45・9）

藪 禎子 透谷における「思想」（『藤女子大学国文学雑誌』第8号、昭45・9）↓『北村透谷』（日本文学研究資料叢書）

坂田尚子 「厭世詩家と女性」論（同右）

桶谷秀昭 小田切秀雄の反論に答える（『日本読書新聞』昭45・9・7）

高田 稔 北村透谷に関する若干の考察―勝本清一郎氏の透谷年譜を中心として―（『小田原地方史研究』第2号、昭45・10）

北川 透 山路愛山とは誰か1（一）前提的批判（『犯罪』第2号、昭45・11）↓『内部生命の砦』

前田 愛 透谷の原像（『国語通信』第131号、昭45・11）↓『近代日本の文学空間』新曜社、昭58・6

村上一郎 「内部生命論」考（『現代詩手帖』昭45・11）

山田有策 秘宮は日本近代にありうるか 透谷と口語散文（同右）

織田達朗・吉増剛造・井上輝夫・加藤武揚・吉田武史（座談会） 透谷の原像を求めて（『あにまる・びべす』第3号、昭45・12）

〔71〕川西健介 北村透谷と大手拓次（『ユリイカ』昭46・1）

佐藤善也 透谷の筆跡から（寄託資料紹介）（『日本近代文学館 図書・資料委員会ニュース』No.15、昭46・1）

片山晴夫 『蓬萊曲』小論―透谷の古さをめぐって―（『国語国文学』第15号、昭46・2）

北村透谷（近代作家と西欧文学）（『国文学』昭46・2）

野山嘉正 明治二十年代におけるエマソンの受容―徳富蘇峰と北村透谷の場合―〔学習院高等科研究紀要〕  
第5号、昭46・3)

桶谷秀昭 北村透谷〔異端の群像〕自由書房、昭46・4)

山本捨三 北村透谷・浦原有明〔現代詩人論〕桜楓社、昭46・4)

小田切秀雄 北村透谷〔蓬萊曲〕(名著複刻全集編集委員会編)『特選名著複刻全集近代文学館―作品解題―』

日本近代文学館、昭46・5)

永藤 武 近代日本の人格宗教とキリスト教―北村透谷の場合―〔神道宗教〕第63号、昭46・5) ↓『文学  
と日本的感性』ぺりかん社、昭58・3

橋詰静子 「慈善事業の進歩を望む」の執筆年代について―北村透谷ノートのうち〔文芸と批評〕第3巻第

6号、昭46・5)

平岡敏夫 北村透谷〔解釈と鑑賞〕昭46・5、臨時増刊〔近代作家の情炎誌〕↓『続北村透谷研究』

平岡敏夫(インタビュー) 北村透谷像の現在 平岡敏夫氏に聞く〔日本読書新聞〕昭46・5・3)

谷沢永一 透谷像の現代的系譜 小田切秀雄の鮮明な「像」から(同右)

橋浦兵一 写真／情熱〔明治の文学とことば〕(評論社叢書1) 評論社、昭46・6)

平岡敏夫 明治浪漫主義とナシヨナリズム(明治中期)〔解釈と鑑賞〕昭46・6) ↓『続北村透谷研究』

関 良一 北村透谷(作家にみるナシヨナリズム)(同右) ↓『考証と試論 二葉亭・透谷』

宮川 透・土方和雄 実世界から想世界へ〔現代日本思想史〕2(自由民権思想と日本のロマン主義)、青木

書店、昭46・6)

- 吉増剛造 中心志向―透谷その他―（『吉増剛造詩集』〈現代詩文庫41〉思潮社、昭46・6）
- 橋浦兵一 文学史観とことば（『春秋』第124号、昭46・7）↓『作家の育てたことば』南雲堂、昭60・5
- 藤井貞和 非望のエロス 近代の地獄 明治青年・透谷をめぐる（『時評 詩 7月』）（『日本読書新聞』昭46・8・9）
- 島崎藤村の名作に現われた透谷と美那子の愛（『町田市文学散歩（5）』）（『広報まちだ』昭46・8・21）↓寺田和雄『わが山旅、まちだ文学散歩』町田ジャーナル社、平8・6
- 平岡敏夫 北村透谷と島崎藤村（『解釈と鑑賞』昭46・9）〈特集 近代文学における「私」〉
- 橋詰静子 北村透谷『蓬萊曲』（同右）
- 桶谷秀昭 北村透谷紀行―二つの青春、二つの故郷―（『歴史と人物』昭46・10）
- 亀井俊介 ナショナル文学の探求（『ナショナルリズムの文学 明治の精神の探求』〈研究社叢書〉研究社出版、昭46・10）
- 沢田泰紳 透谷の入信とキリスト教信仰の性格（『山梨英和短期大学紀要』第5号、昭46・10）
- \*鈴木一正 北村透谷論―透谷における「牢獄」の意味―（『風宴』第7、8号、昭46・10、47・1）
- 立川昭二郎 北村透谷研究―『厭世詩家と女性』をめぐる―（『広島商大論集 法文編』通巻第19号、昭46・10）
- 中村 完 『蓬萊曲』考（『透谷論』）（『日本文学』昭46・10）
- 吉田精一 総説（吉田精一・浅井清編『近代文学評論大系』1（明治期Ⅰ）、角川書店、昭46・10）「当世文学の潮模様」「時勢に感あり」「人生に相渉るとは何の謂ぞ」「明治文学管見」「人生の意義」など7篇を収録

浅井 清 解題 (同右)

\*吉田精一 北村透谷 (評論の系譜) (『解釈と鑑賞』昭46・10・12) ↓ 『近代文芸評論史 明治篇』至文堂、昭

50・2

平岡敏夫 透谷像と(研究)と 『続北村透谷研究』の書評を読んで (『日本読書新聞』昭46・10・25)

藤井信乃 北村透谷「蓬萊曲」論 (『星美学園短期大学研究論叢』第4号、昭46・11)

森田実歳 「哀詞序」と富井まつ (『国語と国文学』昭46・11)

菊池克美 維新と透谷 (読者のページ) (『解釈と鑑賞』昭46・12)

北川 透 恋愛詩における透谷と藤村 (『藤村詩集』(『日本近代文学大系15』) 月報、角川書店、昭46・12) ↓

『蝶』の行方』

笹淵友一 北村透谷 (『解釈と鑑賞』昭46・12、臨時増刊(作家と自殺)) ↓ 『作家と自殺』至文堂、昭47・3

大原健士郎 北村透谷・浪漫的自殺 (同右) ↓ 『作家と自殺』至文堂、昭47・3

佐藤善也 「富士山遊びの記憶」—そのモチーフとテーマ— (『立教大学日本文学』第27号、昭46・12)

野山嘉正 北村透谷「内部生命論」(『国文学』昭46・12、臨時増刊(『近代日本文学の歴史』))

前田 愛 明治前期ナショナリズムの諸相 (『社会思想』第1巻第4号、昭46・12) ↓ 『幕末・維新期の文学』

法政大学出版社、昭47・10

(72) 東郷克美 解説—北村透谷研究史への素描— (『北村透谷』(『日本文学研究資料叢書』) 有精堂出版、昭47・1)

田原 勇 作品分析—北村透谷のキリスト教受容について— (『三育学院短期大学紀要』創刊号、昭47・2)

平岡敏夫 北村透谷 (近代日本における思想と文学) (『日本文学』昭47・2)

伊豆利彦・相原和邦・小沢勝美・畑 有三・清水 茂（座談会） 近代文学研究の前提―第26回大会シンポジ

ウムをめぐる―（同右）

水上 勲 「人生相渉論争」をめぐる二、三の問題（『同志社国文学』第7号、昭47・2）

佐藤善也 回生の試み―「楚囚之詩」小論―（『国文学』昭47・3）↓『北村透谷―その創造的営為』

北川 透 み、ずのうた―「風流」をめぐる―（同右）↓『幻境』への旅

辻本雄一 「我牢獄」試論―透谷の「表現」獲得の問題と関連して―（『国文学研究』第46集、昭47・3）

\*黒古一夫 北村透谷論（『視向』No.1〜5、7、10、11、昭47・4、8、11、48・2、5、49・6、50・6、

9）↓『北村透谷論―天空への渴望』

高橋 渡 透谷と啄木 憤怒の文学1（『知己』第17号、昭47・4）

矢島幸運 透谷の「エマルソン」をめぐる―北村門太郎著作目録（『英学史研究』第4号、昭47・4）

色川大吉 透谷と自由困民党の人びと（『日本人の100年』4（自由民権運動）、世界文化社、昭47・5）↓

『歴史家の嘘と夢』朝日新聞社、昭49・3

本多 仁 人間・北村透谷（上）―政治的なるものから人間的なるものへ―（『情念』第4号、昭47・5）

溝部英章 北村透谷覚え書（『無名鬼』第17号、昭47・5）

西田祥二 挫折の系譜（1）―北村透谷の場合―（『未踏』第2号、昭47・6）

広野晴彦 生田春月と北村透谷（研究ノート）（『朝日新聞』昭47・6・6夕刊）

秋谷 豊 若き挫折者の肖像―北村透谷を中心に―（『地球』第53号、昭47・7）↓『抒情詩の彼方』荒地出

版社、昭51・12

高橋喜久晴 北村透谷の死（同右）↓『詩の幻影』花神社、昭53・11

岡 保生 北村透谷の恋愛（『解釈と鑑賞』昭47・7、臨時増刊〔文壇史事典〕）↓長谷川泉編『文壇史事典』至文堂、昭47・10

和田謹吾 『文学界』の創刊（同右）↓長谷川泉編『文壇史事典』至文堂、昭47・10

岡 保生 北村透谷の自殺（同右）↓長谷川泉編『文壇史事典』至文堂、昭47・10

吉増剛造 島崎藤村と北村透谷（『毎日新聞』昭47・7・17夕刊）↓『わたしは燃えたつ蜃気楼』小沢書店、昭51・2

佐藤泰正 北村透谷集解説（『北村透谷・徳富蘆花集』〔日本近代文学大系9〕角川書店、昭47・8）↓『文学その内なる神』桜楓社、昭49・3

佐藤善也 北村透谷集注釈／北村透谷参考文献／北村透谷年譜（同右）／藪 禎子 透谷の混沌（同右月報）／中村素堂 作家の書跡 徳富蘆花・北村透谷（同右月報）

三好豊一郎 透谷と「幻境」の碑（『読売新聞』昭47・8・3夕刊）

川副国基 解説（『近代評論集I』〔日本近代文学大系57〕角川書店、昭47・9）「伽羅枕及び新葉末集」を収録

中村 完 注釈／筆者略伝（同右）

鈴木克介 国家を内から超えるもの 北村透谷と現代（『日本の底流』第4号、昭47・10）

吉増剛造 透谷と朗読（『文学界』昭47・10）↓『朝の手紙』小沢書店、昭49・12

工藤のぼる 思想の自然過程―透谷論へのアプローチ（『斑』昭47・11）

西川 修 北村透谷「蓬萊曲」と箱根（『近代日本文学』創刊号、昭47・11）

平岡敏夫 北村透谷と「弱者」像——「鬼心非鬼心」を中心に——（『古典と近代文学』第13号、昭47・11）↓

【北村透谷研究 第三】

色川大吉 埋もれていた「北村透谷論」——関文月の遺業にふれて——（『図書』昭47・12）

桶谷秀昭 明治の知識人——透谷・啄木・漱石——（『文学と歴史の影』北洋社、昭47・12）

北川 透 近代日本思想における創造と挫折——思想家としての北村透谷小論——（『時の楔——北川透初期評論・

発言集』死葬出版会、昭47・12）

北川 透 不眠の詩——透谷の詩の論理——（『ユリイカ』昭47・12）↓『幻境』への旅』

藤田修一 北村透谷の自然観——「万物の声と詩人」「一夕観」を中心に——（『国学院雑誌』昭47・12）

吉本隆明 北村透谷と現代（『敗北の構造』弓立社、昭47・12）

〈73〉吉武好孝 北村透谷の「蓬萊曲」とバイロンの「マンフレッド」（『武蔵野英米文学』VOL.5、昭48・1）

上田正行 透谷の文明論——「漫罵」を中心に——（『東書高校通信 国語』第16号、昭48・2）

田原 勇 北村透谷——詩に見いだされる思想の変遷と平和主義について——（『三育学院短期大学紀要』第2号、

昭48・2）

坪内稔典 北村透谷論（1）（『日時計』第10号、昭48・2）

\*片岡 懋 『楚囚之詩』についての一考察／『蓬萊曲』についての一考察／闘う浪漫主義者透谷（北村透谷研

究）（『駒沢大学短期大学紀要』創刊号、3号、昭48・3、49・3、50・3）↓『近代作家論叢』新典社、昭

片山晴夫 「楚囚之詩」小論―その構成について―（『国語国文学』第16号、昭48・3）

澤村光博 北村透谷―内部生命論の位相（『詩と思想』第3巻第2号、昭48・3）

野田宇太郎 相模湾岸の異色詩人たち 北村透谷と木下李太郎（『文学の旅』6（伊豆・富士・箱根・湘南）、

千趣会、昭48・3）

矢島幸運 日本における「エマスン」（『立正大学教養部紀要』人文科学・社会科学編、第6号、昭48・3）

平岡敏夫 牢獄と女性―透谷の創出イメージ―（『近代社会文学集』（日本近代文学大系50）月報、角川書店、

昭48・4）

美と純粹の詩神 北村透谷（佃実夫編『神奈川人物風土記』昭和書院、昭48・4）

芹沢俊介 都市は今、〈獄〉をめざす 故郷・山の手・近代を繋ぐ三章（『日本読書新聞』昭48・4・5）

太田賢一 北村透谷―「内部生命論」―（笠原一男編『近代日本の名著12選』（名著入門ライブラリー）学陽

書房、昭48・6）

三田博雄 北村透谷（『山思想史』（岩波新書）岩波書店、昭48・6）

伊谷隆一 松陰・透谷のパトスと革命―節義の熱意・節義の結局―（『伝統と現代』第22号、昭48・7）

中村 完 北村透谷の詩―思想と文体―（『日本文学』昭48・7）

峰島旭雄 明治期における西洋哲学の受容と展開（10）―北村透谷と宗教―（『早稲田商学』第27号、昭48・

7）

笠原芳光 北村透谷の信仰（同志社大学人文科学研究所・キリスト教社会問題研究会編『日本の近代化とキリ

スト教』新教出版社、昭48・8）

片山晴夫 『蓬萊曲』にあらわれた恋愛像（『近代文学論』第5号、昭48・9）

河野信子 北村透谷と島崎藤村（『伝統と現代』第23号、昭48・9）

小瀬渺美 透谷に投影した芭蕉——「松島に於て芭蕉を読む」に触れて——（『風』第28巻第9号、昭48・9）

野山嘉正 北村透谷における自己劇化（『文学』昭48・9）↓『日本近代詩歌史』東京大学出版会、昭60・11

佐藤忠男 伝統的概念「侠」と近代 北村透谷「徳川氏時代の平民的理想」解説（『中央公論』昭48・10）（特集

集 近代日本百年 青春を創った書）

梅瀬良平 『春』形成考——透谷から藤村へ——ニーチエを媒介として——（『日本近代文学』第19集、昭48・10）

↓『島崎藤村研究』みちのく書房、平8・7

源 了円 北村透谷論（『講座比較文学』5（西洋の衝撃と日本）、東京大学出版会、昭48・10）↓『実学思想

の系譜』講談社学術文庫、昭61・6

吉増剛造 透谷の「三日幻境」など（『ちくま』第54号、昭48・10）↓『朝の手紙』小沢書店、昭49・12

色川大吉 ほんとの出会い（『毎日新聞』昭48・11・19朝刊）↓『燎原のこえ』筑摩書房、昭51・6

中山和子 北村透谷（『国文学』昭48・12、臨時増刊（現代文学研究必携））

森田実歳 透谷とまつ、（『清泉女子大学紀要』第21号、昭48・12）

桶谷秀昭・北川 透（対談） 透谷と時代精神（『日本読書新聞』昭48・12・17）↓桶谷秀昭『他者への架橋

国文社、昭49・4

内田勝彦 北村透谷と先祖（『橘史談会報』特別号、昭48・秋）発行月不明

（74）※荒川法勝 北村透谷（日本の存在の詩の系譜）（『風』第50、52号、昭49・1、7）↓『日本の存在の詩の系譜』

土曜美術社出版販売、平8・7

形岡 瑛 北村透谷の人生と文学（『日本文学』昭49・1）

坂根俊英 「楚囚之詩」論―北村透谷研究ノート―（『尾道短期大学研究紀要』第23集、昭49・1）

太田三郎 雑誌『平和』と北村透谷―キリスト教平和運動の意義―（『比較文学講座』4（日本近代評論）、清水弘文堂、昭49・2）

水弘文堂、昭49・2）

\*川崎 司 透谷年譜追加・訂正（『日本文学』昭49・2、5）

佐渡谷重信 前期浪漫主義とアメリカ精神（『アメリカ精神と近代日本 森有礼から三島由紀夫まで』弘文堂、昭49・2）

昭49・2）

野山嘉正 北村透谷の抒情詩―蝶のイメージについて―（『山梨大学教育学部研究報告』第一分冊、第24号、昭49・2）

昭49・2）

榎林混二 透谷における発想の限界―儒学共同体の光芒―（『近代文学試論』第12号、昭49・2）↓『北村透谷と徳富蘇峰』

谷と徳富蘇峰』

小沢勝美 透谷と秋山国三郎―龍子句集「安久多草紙」の刊行によせて―（『5』第5号、昭49・3）↓『透谷と秋山国三郎』。『北村透谷 原像と水脈』

谷と秋山国三郎』。『北村透谷 原像と水脈』

\*郷原 宏 北村透谷―虚空の狙撃兵（『近代詩人論』2、3）（『詩学』昭49・3、4）

\*鈴木一正 最近における透谷研究文献目録（『風宴』第13、16号、昭49・3、50・3）

玉城 徹・色川大吉（対談） 文学と思想（『短歌』昭49・3）

\*西川 修 北村透谷―自由民権運動と中世開眼―（『二松学舎大学人文論叢』第6、7輯、昭49・3、10）

千葉真郎 透谷の恋愛（『明日香』第39巻第3号、昭49・3）

吉野静枝 北村透谷研究―「鬼心非鬼心」をめぐる―（『東洋大学短期大学論集 日本文学篇』第10号、昭49・3）

—— 北村透谷 先祖は代々医者だった 出身は小田原前川（『朝日新聞』〔神奈川版〕昭49・3・19朝刊）  
〔新聞記事〕川崎版・湘南版にも掲載

木村 毅 「文学界」記伝―私の感想―（増田五良著『明治廿六年創刊「文学界」記伝』付録、国書刊行会、昭49・4）

菅谷規矩雄 北村透谷―〈新体詩〉論（その二）、音数律に関するノート（VI）（『ユリイカ』昭49・4）

滝瀬爵克 近代日本の夜明け 北村透谷（近代につぼん思想と人間）（『につぼん』第2巻第2号、昭49・4）  
平岡敏夫 透谷から啄木へ―近代文学史の一系譜（『解釈と鑑賞』昭49・5）

吉本隆明 北村透谷小論〔断片〕（『吉本隆明全著作集』15〔初期作品集〕、勁草書房、昭49・5）

—— 北村透谷 没後八〇年 日本「近代」を突きさし現代を射ぬく眼光（この月の人）（『歴史地理教育』昭49・5）

北川 透 透谷―その不可能な中心 没後八十年を迎えて（『毎日新聞』昭49・5・16夕刊）↓『内部生命の砦』

内田勝彦 北村透谷の先祖（『国文学春秋』第4号、昭49・6）

青木正次 透谷・病氣・言葉（『日本文学』昭49・7）

佐藤善也 コールリッジと透谷（同右）↓『北村透谷―その創造的営為』

\*北川 透 〈戦いの人〉の暗渠／愛山再評価のことなど〈透谷像のアポリア〉〔文学〕昭49・7・9) ↓  
『蝶』の行方』

色川大吉・平岡敏夫〈対談〉透谷の魅力〔文学〕昭49・7) ↓色川大吉『文明横議』日本書籍、昭54・3

\*高橋 渡 鳥瞰・透谷像〔浪曼〕昭49・7(50・1)

平岡敏夫 明治ナシヨナリズムと歴史思想―陸羯南・徳富蘇峰・山路愛山・北村透谷―〔伝統と現代〕第28号、昭49・7)

山田博光 北村透谷〈近代作家と宗教〉〔解釈と鑑賞〕昭49・7)

笹淵友一 独歩と透谷(中島健蔵編『国木田独歩集』〈明治文学全集66〉月報、筑摩書房、昭49・8)

野山嘉正 北村透谷の散文〔文学〕昭49・8)

北川 透 わが著書を語る〔幻境〕への旅〕〔出版ニュース〕昭49・8月上旬号、昭49・8・1) ↓〔蝶〕の行方』

平岡敏夫 透谷その内なる〈俠骨〉<sup>シベリヤ</sup> 没後八十年に寄せて〔週刊読書人〕昭49・8・5) ↓『北村透谷研究

### 第三

久保田晴次 神秘の詩人北村透谷の芭蕉受容について〔芭蕉受容の研究〕桜楓社、昭49・9)

平岡敏夫 透谷への想像力 北川透〔幻境〕への旅〕〔読売新聞〕昭49・9・2朝刊) ↓『北村透谷研究

### 第三

沢田泰紳 透谷と教会(「山梨英和短期大学紀要」第8号、昭49・10)

平岡敏夫 恋愛解放の思想―北村透谷・島崎藤村・与謝野鉄幹・晶子〔国文学〕昭49・10)

- 久保忠夫 想世界の追求―北村透谷・岩野泡鳴（同右）
- 洪沢孝輔 靈魂と生理―北村透谷・蒲原有明・萩原朔太郎（同右）
- 吉武好孝 北村透谷の翻案作品（『近代文学の中の西欧―近代文学翻案史―』（比較文学研究叢書1）教育出版センター、昭49・11）
- 形岡 瑛 北村透谷の富士登山（『日本文学』昭49・12）
- 佐藤善也 「一夕観」小論（『立教大学日本文学』第33号、昭49・12）↓『北村透谷―その創造的営為』
- 小池藤五郎 透谷の未亡人（研究ノート）（『朝日新聞』昭49・12・6夕刊）
- （75）桶谷秀昭 虚相について―近代文学の表現―（『現代文学講座』8（文学史の諸問題）、至文堂、昭50・1）
- 笹淵友一 解説（『幸田露伴・嵯峨の屋お室・宮崎湖処子・北村透谷』（近代日本キリスト教文学全集1）教文館、昭50・1）
- 吉本隆明・笠原芳光（対談） 透谷の思想と文学（同右月報）↓『思想の根源から』青土社、昭50・6
- 福岡哲司 『楚囚之詩』の逆説性について（山梨県立峡北高校「研究紀要」第4号、昭50・1）
- 吉本隆明・笠原芳光（対談） 近代的人間とキリスト教―北村透谷の思想と文学をめぐって―（『教団新報』昭50・1・25）↓『思想の根源から』青土社、昭50・6
- 江木文彦 北村透谷と髪の毛（『小田原わが街』No.5、昭50・2）
- 小沢勝美 透谷における「故郷」の意味―「我牢獄」から「三日幻境」へ―（『日本文学』昭50・2）↓『北村透谷 原像と水脈』
- 片山晴夫 『蓬萊曲』論 道士鶴翁の意味（『北海道教育大学紀要』第一部A、第25巻第2号、昭50・2）

佐藤善也 キリスト教の受容と近代文学（紅野敏郎ほか編『現代文学講座』1〈明治の文学Ⅰ〉、至文堂、昭50・2）↓『透谷、操山とマシュー・アールド』

辻本雄一 『青山評論』記者三浦泰一郎論―北村透谷との接点を辿って―（『国文学研究』第55集、昭50・2）

橋詰静子 地を這うもの―「地龍子」から「み、ずのうた」へ（北村透谷詩考）―（『国文学研究』第55集、昭50・2）↓『透谷詩考』

岡崎公良 北村透谷（『近代・現代日本文学論の哲学』新樹社、昭50・3）

笠原芳光 透谷の魅力（『木野評論』第6号、昭50・3）

北川 透 透谷から藤村へ―その原型的屈折について―（紅野敏郎ほか編『現代文学講座』2〈明治の文学Ⅱ〉、至文堂、昭50・3）

境 忠一 北村透谷と島崎藤村―抒情の錯誤―（『福岡大学人文論叢』第6巻第4号、昭50・3）↓『近代詩と近代代』葦書房、昭50・3

須藤松雄 「内部生命論」と「一夕観」―透谷小論―（『茫』第7号、昭50・3）

中村文昭 標的者とその影―北村透谷論（『標的者とその影』国文社、昭50・3）

笹淵友一 北村透谷「内部生命論」―「キリスト教と文学」の方法化の一つの実践―（笹淵友一編『キリスト教と文学』第1集、笠間書院、昭50・4）

中山和子 透谷における「心」の問題（同右）／小田桐弘子 北村透谷と平和運動（同右）

芹沢俊介 思想の固有性と自然―北村透谷をめぐる―（『駿台論潮』第73号、昭50・4）

橋詰静子 水に潜むもの―蝶と乞食と蟹と（透谷詩考）―（『おべりすく』第3号、昭50・4）↓『透谷詩考』

\*吉増剛造 北村透谷（北村透谷ノート）〔短歌〕昭50・4、12、51・3、5〕↓〔透谷ノート〕昭50・7から（北村透谷ノート）は（透谷ノート）と改題

\*井上輝夫 北村透谷の墓に 詩人のミッションをめぐる（手帖時評）〔現代詩手帖〕昭50・5、7）

小山宙丸 北村透谷の宗教観（比較思想史研究会編著『明治思想家の宗教観』大蔵出版、昭50・5）

吉増剛造 透谷のなかの大岩壁（『北村透谷詩集』〈現代詩文庫〉解説、思潮社、昭50・5）

後藤順一郎 透谷から啄木へ（『新胎』No.5、昭50・6）

野崎守英 日本人の自我意識素描―仁斎・象山・透谷・漱石・幾太郎（『実存主義』No.72、昭50・6）↓〔宣

長と小林秀雄』名著刊行会、昭57・11

光山樹太郎 蝶のゆくえ 文学散歩 北村透谷（小田原の散歩道9）〔小田原わが街〕No.9、昭50・6）

（クローラー） 透谷ブーム（大波小波）〔東京新聞〕昭50・6・12夕刊）

桶谷秀昭 一つの時代を生きた心の経験―北村透谷のこと、村上一郎のこと―〔日本及日本人〕昭50年盛夏

号、昭50・7）↓『永遠と亡びゆくもの』北洋社、昭51・10

佐藤善也 北村ミナ宛書簡草稿のこと（『日本近代文学館』第26号、昭50・7）

楨林混二 北村透谷における文体の意味（『佐賀大学教育学部研究論文集』第23集、昭50・7）

真木能之 精神の原野―北村透谷論―（『地下水』創刊号、昭50・7）

〔久〕 透谷の願望とそして崩壊（『早稲田キャンパス』第203号、昭50・7・10）

竹田日出夫 北村透谷と「幻化」（『国語国文学論究』第7号、昭50・9）

― 『武相困民党』に新史料 透谷の思想解明に糸口（『朝日新聞』昭50・9・24朝刊）〈新聞記事〉東

京版

北川 透 透谷の病理―勝本清一郎・吉本隆明の所説を手がかりにして〔磁場〕第6号、昭50・10〕↓〔内  
部生命の砦〕

楳林滉二 北村透谷における発想法の一景〔近代文学試論〕第14号、昭50・10〕

小田切進 透谷・樗牛・啄木 夭逝した天才作家たち〔橋川文三編集指導〕人物探訪日本の歴史〕18〔明治の

逸材〕、暁教育図書、昭50・11〕

平岡敏夫 「蓬萊曲」の柳田素雄〔国文学〕昭50・11、臨時増刊〔日本の旅びと101人〕↓『北村透谷研究  
第三〕

市村 勲 北村透谷の聖書観―「蓬萊曲」の聖書表現をめぐって―〔三育学院短期大学紀要〕第4号、昭  
50・12〕

片岡文雄 人と作品〔片岡文雄編〕明治・大正の詩〕〔日本の詩〕ほるぶ出版、昭50・12〕「ゆきだふれ」「ほ  
たる」「眠れる蝶」「露のいのち」を収録

北川 透 最も圧力のかかる場所―明治ナシヨナリズムと透谷の意味―〔史論〕第2号、昭50・12〕

桶谷秀昭 透谷と漱石〔同右〕

\*工藤のぼる 北村透谷試論〔斑〕創刊〕8号、昭50・12、51・6、52・2、8、53・2、11、54・5、11〕

沼 謙吉 「武相困民党」に新史料発見―北村透谷と農民騒擾事件―〔今月の話題〕〔歴史と人物〕昭50・12〕

↓「幻境」〔幻境碑建立記念誌〕秋山国三郎顕彰会、昭53・5

平岡敏夫 透谷と「小学化学書」〔研究ノート〕〔朝日新聞〕昭50・12・1夕刊〕

付記

主な先行参考文献目録に次のものがある。

- ・山田博光(ほか) 北村透谷研究文献目録(「文学」昭31・2)
- ・内藤洋子・倉田久子 北村透谷 資料年表(『近代文学研究叢書』第2巻、光葉会、昭31・4) 昭44・3に昭和女子大学近代文化研究所から増訂版

- ・関 良一 北村透谷研究文献書誌(『明治大正文学研究』第24号、昭33・6)
- ・平岡敏夫 透谷研究主要文献目録(『北村透谷研究』有精堂出版、昭42・6)
- ・平岡敏夫 透谷研究文献目録(『統北村透谷研究』『北村透谷研究』第三、有精堂出版、昭46・7、57・1)
- ・佐藤善也 北村透谷参考文献(『北村透谷・徳富蘆花集』(日本近代文学大系9) 角川書店、昭47・8)
- ・鈴木一正 最近における透谷研究文献目録(『風宴』第13、16号、昭49・3、50・3。「水脈」創刊号、昭51・8)

・小田切秀雄 参考文献(『北村透谷集』(明治文学全集29) 筑摩書房、昭51・10)

本目録の作成にあたっては、以上のほか『国語国文学論文総目録』(至文堂)、『国語国文学研究文献目録』(至文堂)、『日本文学研究文献要覧』(日外アソシエーツ)などの二次資料を参考にした。